

特定健康診査受診実態調査

調査報告書

平成25年2月

静岡県健康福祉部国民健康保険課

目 次

I	「特定健康診査受診実態調査」の概要	2
II	「特定健康診査受診実態調査」の調査結果	
1	回答者の属性 国民健康保険加入者と他の医療保険加入者	4
2	特定健康診査	
①	「メタボリックシンドローム」の認知度	5
②	特定健診の認知度	5
③	特定健診の認知経路	6
④	特定健診受診経験	7
⑤	特定健診受診頻度	7
⑥	特定健診を受診した感想	8
⑦	平成24年度特定健診の受診	9
⑧	平成24年度特定健診を受診する理由	9
⑨	平成24年度特定健診を受診しない理由	10
⑩	特定健診を受診しやすい体制・内容	11
⑪	効果的な特定健診の受診PR	12
3	特定保健指導	
①	特定保健指導の認知度	13
②	指導対象となったときの利用意向	13
③	特定保健指導を利用する理由	14
④	特定保健指導を利用しない理由	14
⑤	特定保健指導を利用しやすい体制・内容	15
4	健康状態や生活習慣	
①	健康状態	16
②	健康状態や生活習慣	17
③	使用している薬	19
④	1か月の医療費額	20
III	国民健康保険加入者の年代別特定健康診査受診実態要約	21
IV	特定健康診査受診率向上のポイント ～調査結果から	33
V	他の市町などの特定健診受診率向上施策の中から、 緊急雇用者が選んだ特定健康診査受診率向上施策	35
	調査票	36

I 「特定健康診査受診実態調査」の概要

1 調査の趣旨

高齢化の進展に伴い、生活習慣病（がん、虚血性心疾患、脳血管疾患、糖尿病等）が国民の死亡原因の約6割を占め、医療費に占める生活習慣病の割合も国民医療費の約3分の1となっている。これをうけ、生活習慣病の有病者及び予備群を減少させるために、平成20年4月から医療保険者に対し40歳以上75歳未満の被保険者を対象とした特定健康診査・特定保健指導の実施が義務付け（※）られた。（※高齢者の医療の確保に関する法律（昭和57年法律第80号）に基づく。）しかし、制度施行から4年が経過した現在も、実施率は低迷し目標率を達成できていない。そこで、実施率がなかなか伸びない理由や背景を探り、特定健康診査（以下「特定健診」）実施率向上へ向けた施策の基礎資料とするため受診者である県民に対し御意見を伺う形で受診実態調査を実施した。

2 調査の対象（抽出の手順）

- ①静岡県内全市町から60地点を等間隔で抽出。1番目の地点は乱数で抽出、以下は51,322人毎に地点を抽出。
- ②地点（市町）では、40～74歳の男女120名を性・年齢毎に割り当て抽出し、全体で7,200名を抽出した。

	40歳代	50歳代	60歳代	70～74歳	
男性	1,040人	1,040人	1,040人	1,040人	
女性	1,040人	1,040人	1,040人	1,040人	総計
合計	2,080人	2,080人	2,080人	2,080人	7,200人

3 調査の項目

- ・ 回答者の属性（性、年齢、居住地、仕事の有無、勤務形態）
- ・ 加入している医療保険
- ・ 特定健診の認知度、認知経路、受診経験とその感想、受診しやすい形態等
- ・ 特定保健指導の認知度、利用経験とその感想、利用しやすい形態等
- ・ 健康状態や生活習慣等

4 調査の期間と発送数、回収率

平成24年12月4日～平成25年1月9日

発送数 7,200件 回収数 3,381件（回収率 47.0%） 分析対象数 3,327件

	地点数	発送数	回収数	回収率
合計	60地点	7,200人	3,381人	47.0%
伊東市	1地点	120人	53人	44.2%
東伊豆町	1地点	120人	50人	41.7%
沼津市	4地点	480人	200人	41.7%
三島市	2地点	240人	124人	51.7%
富士宮市	2地点	240人	115人	47.9%
富士市	4地点	480人	224人	46.7%
御殿場市	1地点	120人	61人	50.8%
裾野市	1地点	120人	60人	50.0%
伊豆の国市	1地点	120人	47人	39.2%
函南町	1地点	120人	50人	41.7%
長泉町	1地点	120人	54人	45.0%
静岡市葵区	4地点	480人	648人	45.0%
静岡市駿河区	4地点	480人		
静岡市清水区	4地点	480人		
島田市	2地点	240人	101人	42.1%
焼津市	2地点	240人	122人	50.8%
藤枝市	2地点	240人	105人	43.8%
吉田町	1地点	120人	60人	50.0%
浜松市北区	1地点	120人	685人	47.6%
浜松市西区	2地点	240人		
浜松市中区	3地点	360人		
浜松市東区	2地点	240人		
浜松市南区	2地点	240人		
浜松市浜北区	2地点	240人		
磐田市	3地点	360人	188人	52.2%
掛川市	2地点	240人	93人	38.8%
袋井市	2地点	240人	123人	51.3%
湖西市	1地点	120人	56人	46.7%
御前崎市	1地点	120人	48人	40.0%
菊川市	1地点	120人	47人	39.2%
住所不明、分析開始後の戻り等			67人	

※構成割合はすべて百分率で表わし、小数点以下第二位を四捨五入で算出した。そのため、百分率の合計が100%にならないことがある。

※基数となる実数は、集計表、グラフ中に回答数（n）として表記し、回答比率はこれを100%として算出した。

※属性などでのクロス集計では不明を除くために、合計値と合わないことがある。

Ⅱ 「特定健康診査受診実態調査」の調査結果

1 回答者の属性 国民健康保険加入者と他の医療保険加入者

問1 あなたの性別を選んでください

	回答数	男	女	無回答
国民健康保険加入者	1,847	864 46.8%	966 52.3%	17 0.9%
他の医療保険加入者	1,434	618 43.1%	809 56.4%	7 0.5%

問2 あなたの年齢区分を選んでください

	回答数	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳以上	無回答
国民健康保険加入者	1,847	106 5.7%	88 4.8%	109 5.9%	166 9.0%	190 10.3%	649 35.1%	537 29.1%	2 0.1%
他の医療保険加入者	1,434	236 16.5%	236 16.5%	278 19.4%	321 22.4%	140 9.8%	138 9.6%	80 5.6%	5 0.3%

問3 あなたのお住まいの市町を選んでください（地域にまとめなおし）

	回答数	伊豆	東部	中部	西部	無回答
国民健康保険加入者	1,847	62 3.4%	513 27.8%	569 30.8%	698 37.8%	5 0.3%
他の医療保険加入者	1,434	41 2.9%	413 28.8%	453 31.6%	523 36.5%	4 0.3%

問4 あなたの現在のお仕事などを教えてください

	回答数	収入のある 仕事をしている	専業主婦 (主夫)	無職	その他	無回答
国民健康保険加入者	1,847	760 41.1%	336 18.2%	707 38.3%	38 2.1%	6 0.3%
他の医療保険加入者	1,434	1,127 78.6%	183 12.8%	104 7.3%	16 1.1%	4 0.3%

問5 あなたの勤務時間帯を教えてください

	回答数	日中	夜間	不定期	その他	無回答
国民健康保険加入者	760	561 73.8%	27 3.6%	123 16.2%	43 5.7%	6 0.8%
他の医療保険加入者	1,127	984 87.3%	10 0.9%	96 8.5%	36 3.2%	1 0.1%

問6 あなたの週休日を教えてください

	回答数	土・日	平日	不定期	その他	無回答
国民健康保険加入者	760	325 42.8%	133 17.5%	274 36.1%	25 3.3%	3 0.4%
他の医療保険加入者	1,127	811 72.0%	72 6.4%	221 19.6%	20 1.8%	3 0.3%

※勤務時間帯（問5）と週休日（問5）は、問4で「1. 収入のある仕事をしている」をベースにした。

※平日と日曜が休みは、平日に処理している。例）金・日が休日→「平日休み」

2 特定健康診査

① 「メタボリックシンドローム」の認知度

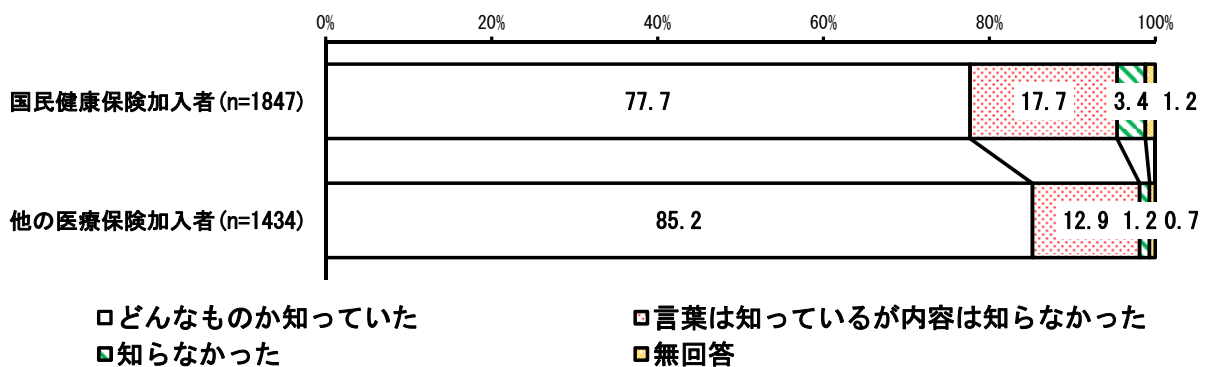
問8 「メタボリックシンドローム」を知っていますか

◆「メタボリックシンドローム」の認知度は、国民健康保険加入者では「どんなものか知っていた」77.7%、「言葉は知っているが内容は知らなかった」17.7%で合わせて95.4%である。一方、他の医療保険加入者では98.1%である。

◆年齢別でみると、いずれの医療保険加入者でも年齢が高くなると認知度は低くなる傾向がみられる。

◆国民健康保険加入者をみると、特定健診を知っている人ほど、受診頻度が高くなると認知度も高くなる。健康状態別では、メタボリックシンドロームを知っている人ほど健康状態が良いと回答する人が多くなる。

<数表編 12 頁参照>



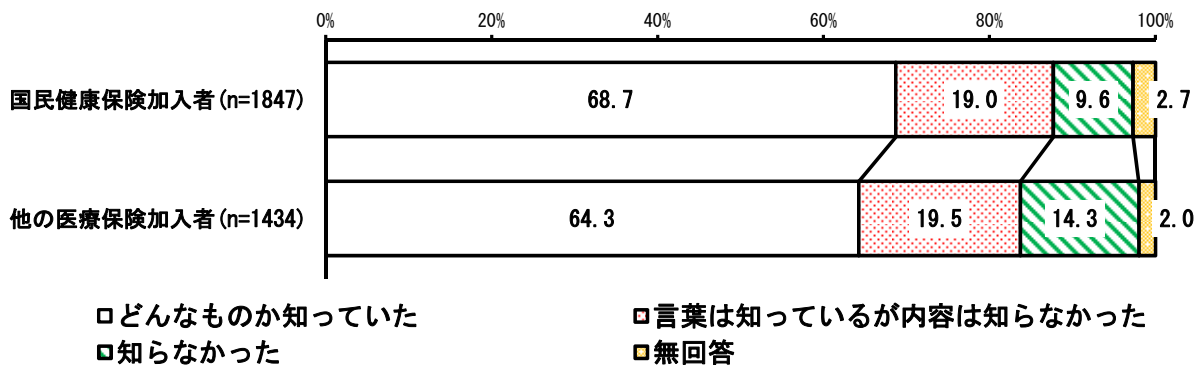
② 特定健診の認知度

問9 特定健康診査(以下「特定健診」)を知っていますか

◆特定健診の認知度は、国民健康保険加入者では「どんなものか知っていた」68.7%、「言葉は知っているが内容は知らなかった」19.0%で合わせて87.7%である。一方、他の医療保険加入者では83.8%である。

◆国民健康保険加入者をみると、年齢が高くなると認知度も高くなる。特定健診受診経験別では受診経験者が82.3%の認知度に対し、受診未経験者は45.4%の低い認知度である。健康状態別では特定健診を知っている人ほど健康状態が良いと回答する人が多くなる。

<数表編 13 頁参照>

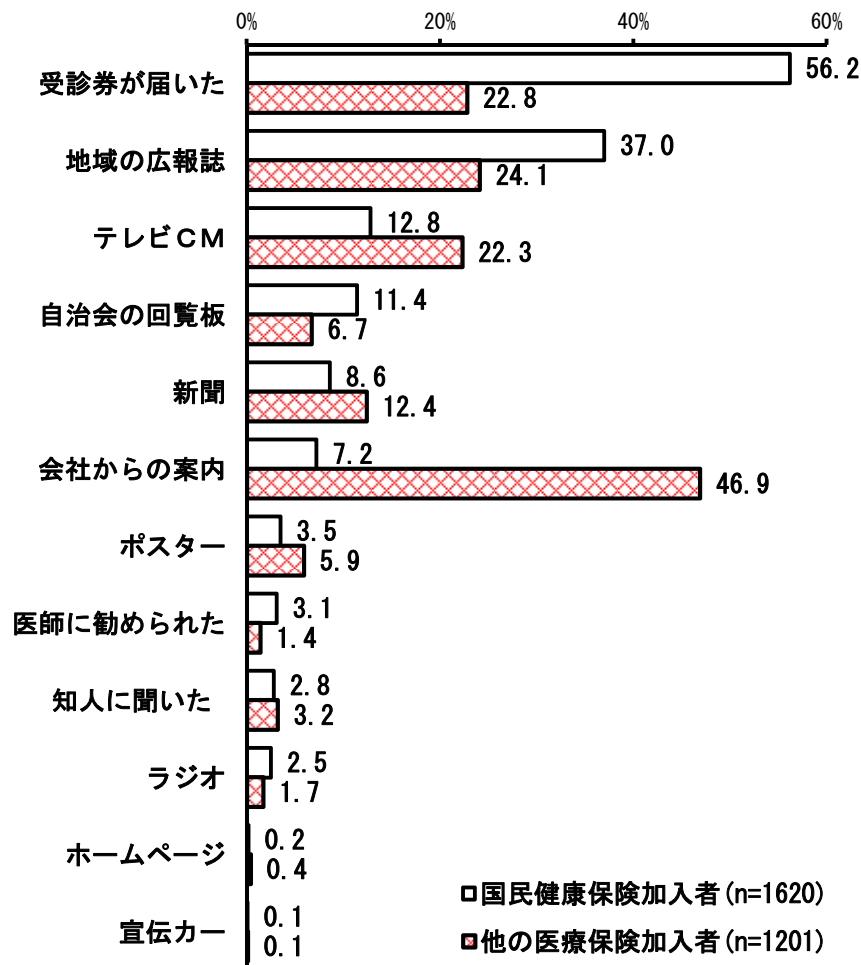


③特定健診の認知経路

問 10 特定健診を知ったのは何からですか（複数回答可）

◆特定健診の認知経路は、国民健康保険加入者では「受診券が届いた」が56.2%と最も多い。次いで、「地域の広報誌」37.0%、「テレビCM」12.8%、「自治会の回覧板」11.4%の順である。
他の医療保険加入者では「会社からの案内」が46.9%と最も高く、次いで、「地域の広報誌」24.1%、「受診券が届いた」22.8%、「テレビCM」22.3%の順となる。「どちらも受診券が届いた」「地域の広報誌」を挙げる人が多かったが、「テレビCM」で知った人もある程度いることがわかる。

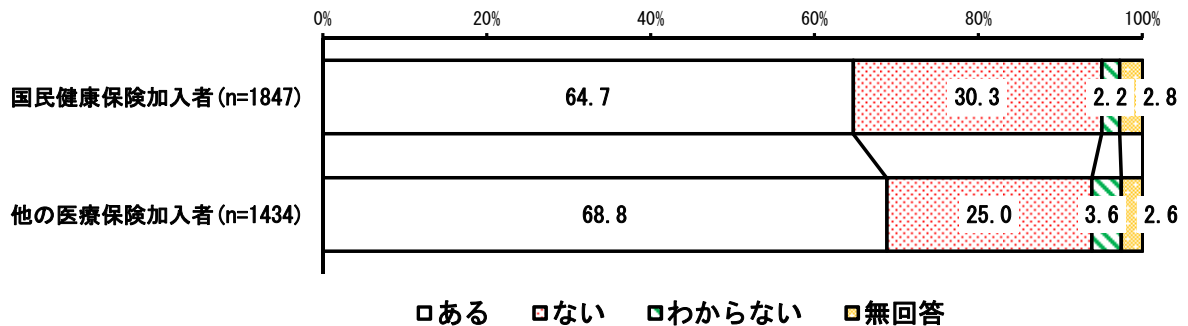
<数表編 14 頁参照>



④特定健診受診経験

問 11 過去に特定健診を受診したことはありますか

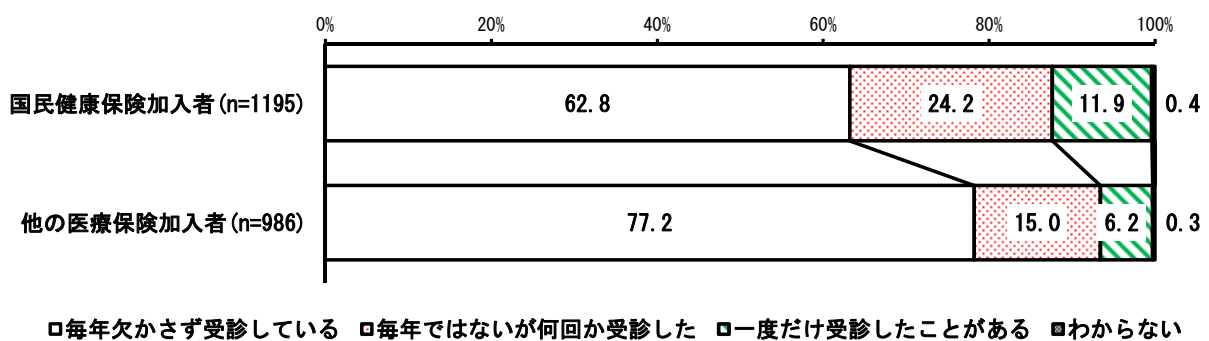
- ◆特定健診の受診経験は、国民健康保険加入者では 64.7%、他の医療保険加入者では 68.8%が特定健診を受診したことがあると答えた。
- ◆国民健康保険加入者をみると、年齢が高くなるほど受診した経験のある方の割合が高くなる。居住地別では、東部 66.5%、西部 66.0%、伊豆 61.3%、中部 61.9%で、東部・西部が伊豆・中部より高いことがわかる。
<数表編 16 頁参照>



⑤特定健診受診頻度

問 12 問 11 で「1. ある」と答えた方にお伺いします
受診の頻度はどれくらいですか

- ◆特定健診の受診頻度は、国民健康保険加入者では「毎年欠かさず受診している」62.8%、「毎年ではないが何回か受診した」24.2%である。一方、他の医療保険加入者では「毎年欠かさず受診している」77.2%、「毎年ではないが何回か受診した」15.0%である。
- ◆国民健康保険加入者をみると、年齢が高くなるほど受診頻度は高くなり、健康状態別では、受診頻度が高くなるほど健康状態が良いと回答した人が多かった。居住地別では、「毎年欠かさず受診している」が東部 64.5%、西部 62.7%、中部 62.2%であるのに比べ伊豆は 55.3%と低い。
<数表編 17 頁参照>

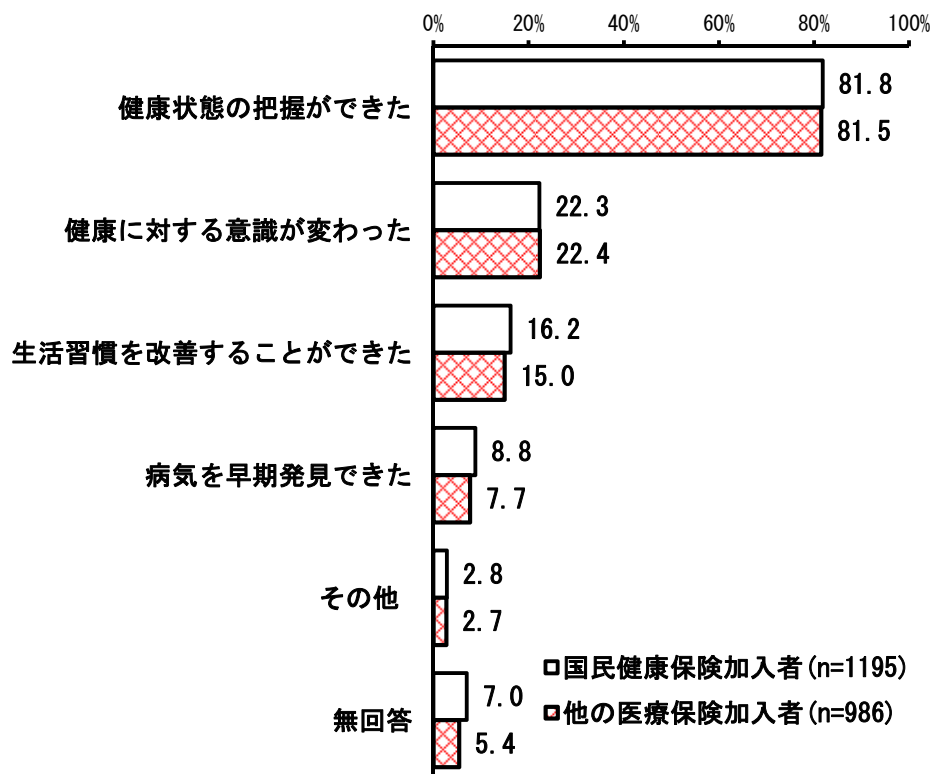


⑥特定健診を受診した感想

問13 問11で「1.ある」と答えた方にお伺いします
受診してよかったと感じたことはありますか（複数回答可）

- ◆特定健診を受診した感想は、国民健康保険加入者では「健康状態の把握ができた」が81.8%で最も高い。次いで、「健康に対する意識が変わった」22.3%、「生活習慣を改善することができた」16.2%、「病気を早期発見できた」8.8%の順である。他の医療保険加入者でも同様の結果である。
- ◆国民健康保険加入者の健康状態別にみると、「健康状態の把握ができた」との感想を挙げた人は健康状態が良いと答える傾向にあると言える。

<数表編 18頁参照>

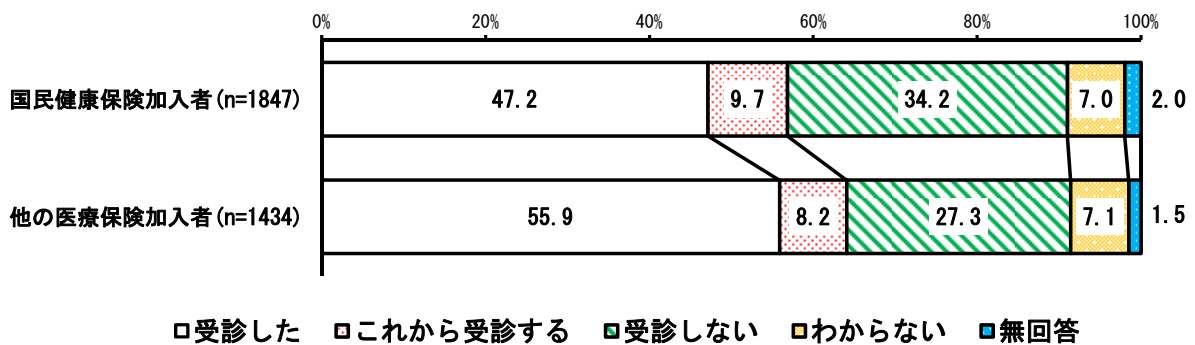


⑦平成 24 年度特定健診の受診

問 14 平成 24 年度の特定健診は受診しましたか

- ◆平成 24 年度の特定健診の受診状況は、国民健康保険加入者では「受診した」47.2%、「これから受診する」9.7%で合わせて 56.9%となる。一方、他の医療保険加入者では 64.1%である。
- ◆国民健康保険加入者をみると、平成 24 年度受診した人で健康状態別では健康状態が良いと回答する人の割合が多かった。年齢や居住地別に差はみられない。

<数表編 19 頁参照>



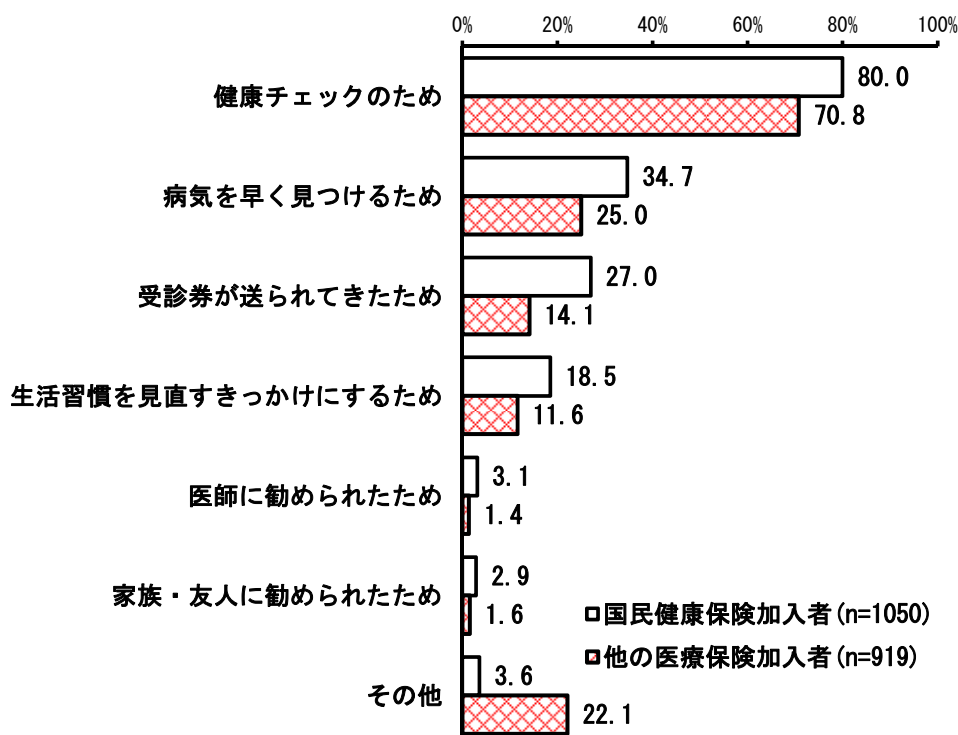
□受診した □これから受診する □受診しない □わからない □無回答

⑧平成 24 年度特定健診を受診する理由

問 15 問 14 で「1. 受診した」又は「2. これから受診する」と答えた方にお伺いします理由は何ですか（複数回答可）

- ◆平成 24 年度の特定健診を受診する理由は、国民健康保険加入者では「健康チェックのため」が 80.0%で最も高い。次いで、「病気を早く見つけるため」34.7%である。他の医療保険加入者でも同様の傾向にあるが、「その他」が項目ごとの値を低くしていると思われる。（「会社で受診するので」を挙げた人が多かった。）

<数表編 20 頁参照>

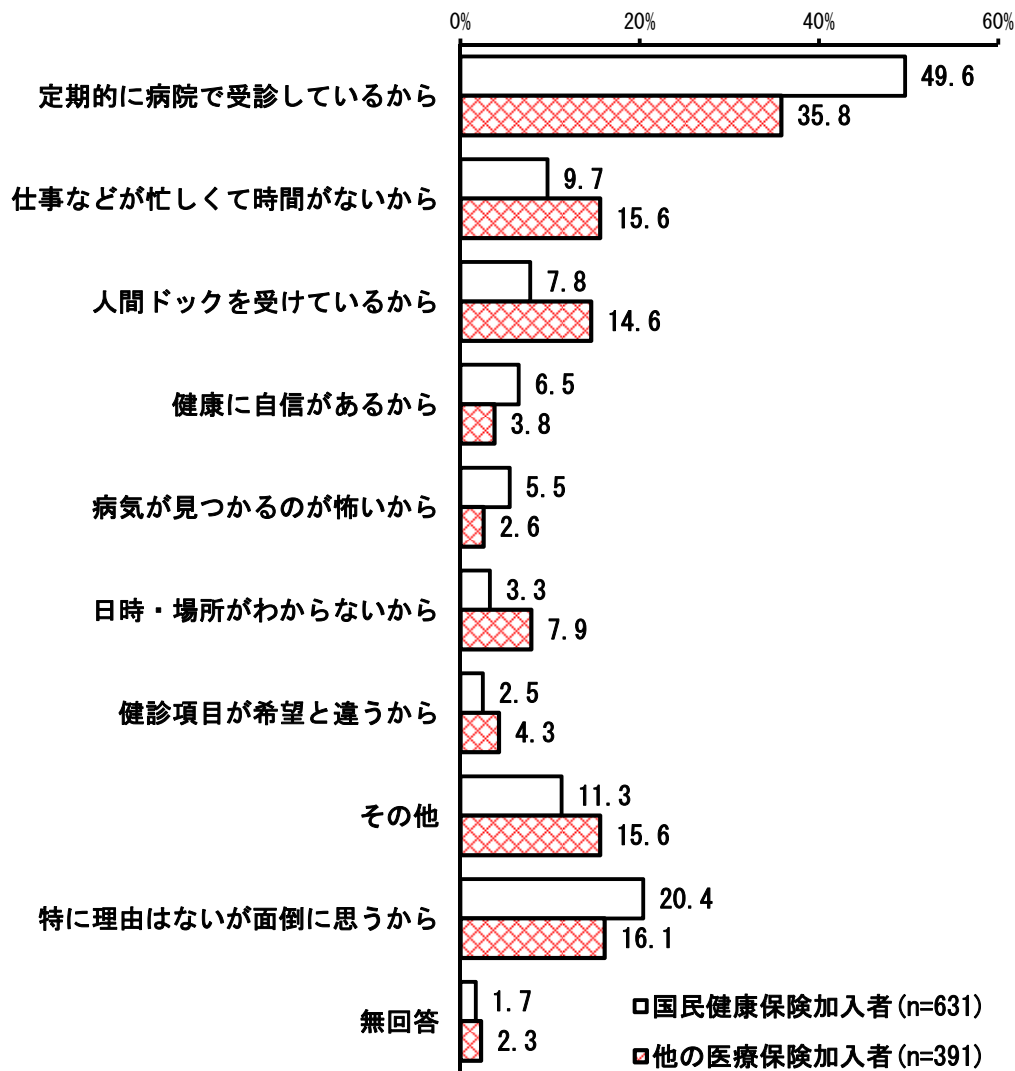


⑨平成 24 年度特定健診を受診しない理由

問 16 問 14 で「3. 受診しない」と答えた方にお伺いします
理由は何ですか（複数回答可）

- ◆平成 24 年度の特健診を受診しない理由は、国民健康保険加入者・他の医療保険加入者とも「定期的に病院で受診しているから」が 49.6%・35.8%と最も高く、次いで「特に理由はないが面倒に思うから」が 20.4%・16.1%と高い。「仕事などが忙しくて時間がないから」も 9.7%・15.6%と高めである。
- ◆年齢別でみると、いずれの保険加入者も年齢が高い層では「定期的に病院で受診しているから」、年齢の低い層では「仕事などが忙しくて時間がないから」の理由が高くなる。

<数表編 21 頁参照>

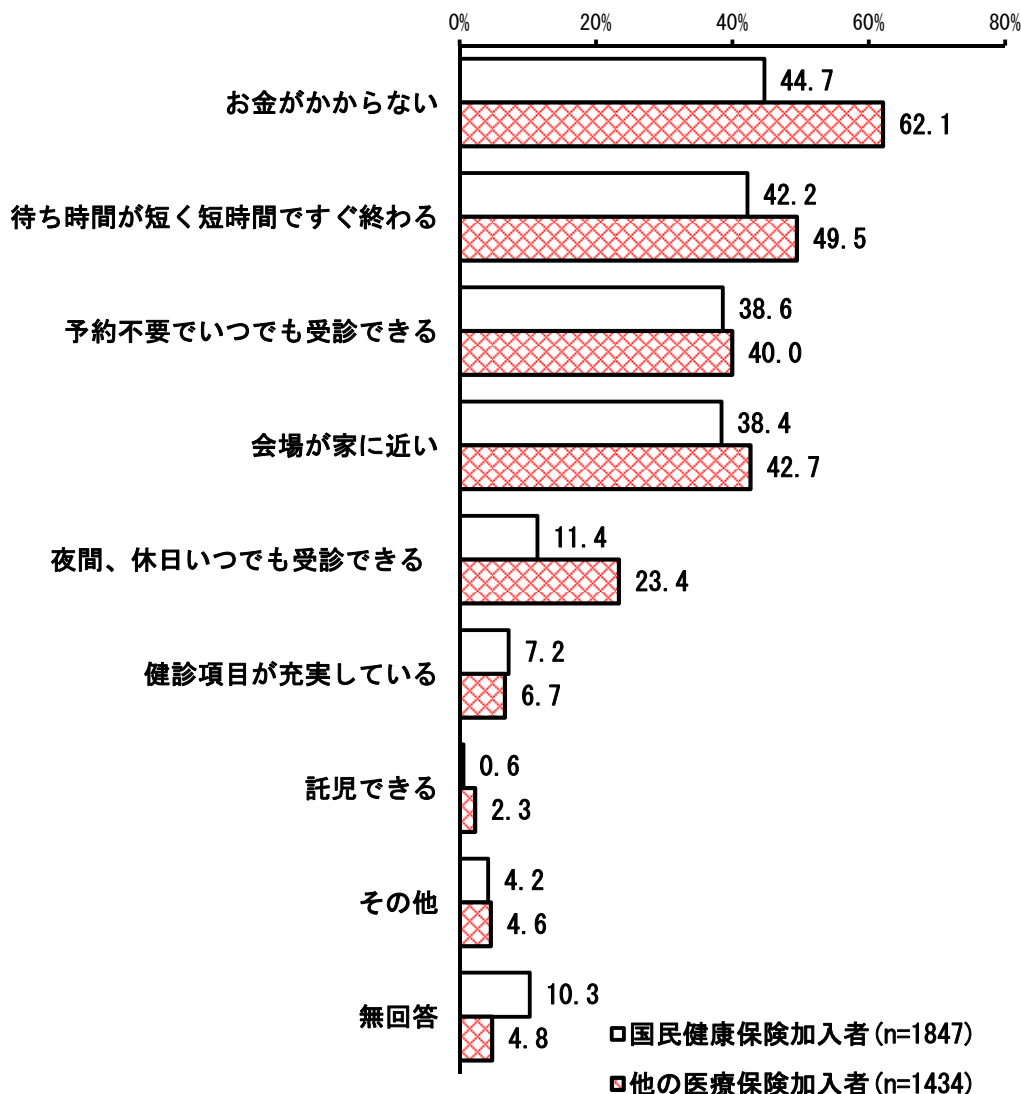


⑩特定健診を受診しやすい体制・内容

問 17 特定健診がどのような体制・内容であれば受診しやすいと思いますか（複数回答可）

- ◆特定健診を受診しやすい体制・内容は、いずれの医療保険加入者も「お金がかからない」が最も高く、国民健康保険加入者では44.7%、他の医療保険加入者では62.1%である。国民健康保険加入者は次いで「待ち時間が短く、短時間ですぐ終わる」42.2%、「予約不要でいつでも受診できる」38.6%、「会場が家に近い」38.4%が、ほぼ同水準である。なお、他の医療保険加入者は「夜間、休日いつでも受診できる」が23.4%と国民健康保険加入者の11.4%に比べて高い。
- ◆項目別に国民健康保険加入者をみると、「待ち時間が短く、短時間ですぐ終わる」と「予約不要でいつでも受診できる」は年齢の低い現役層で高くなる傾向がみられる。

<数表編 23 頁参照>

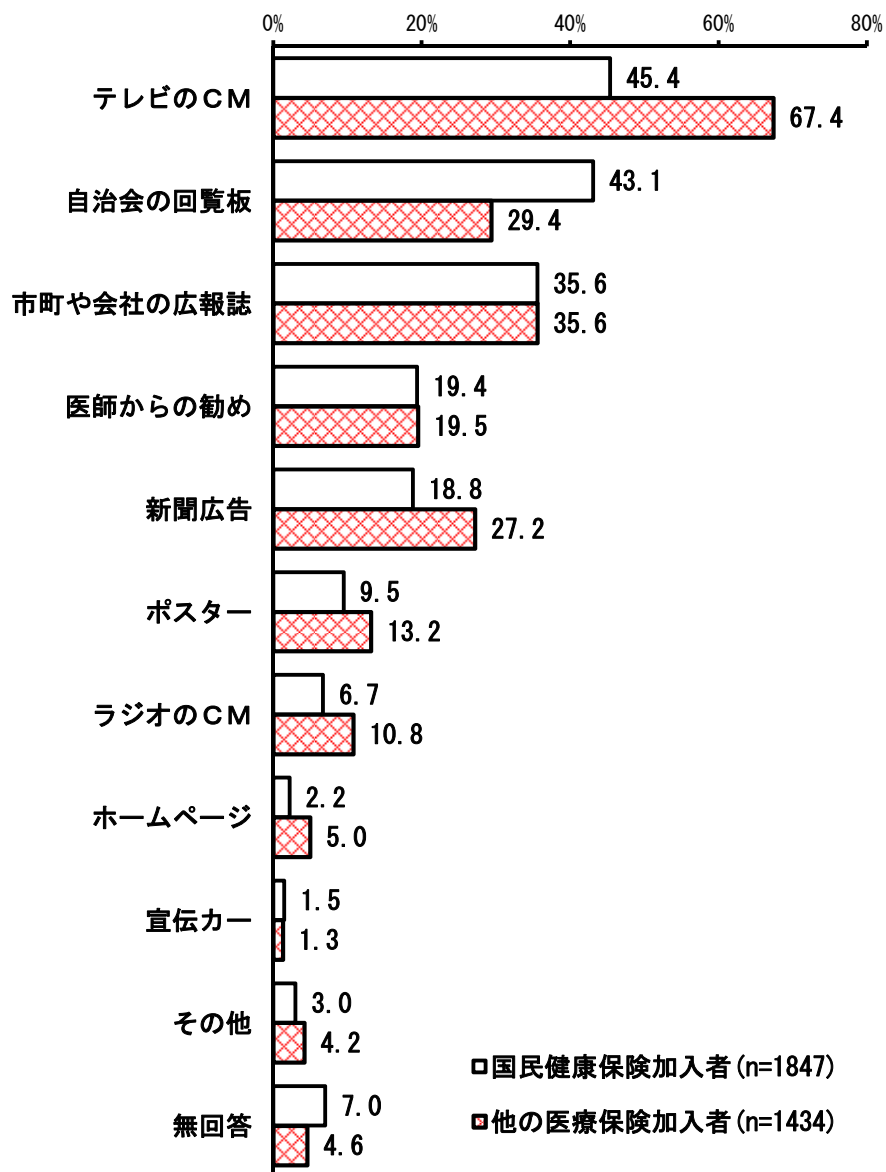


⑪効果的な特定健診の受診PR

問 18 どのような広報が特定健診の受診のPRに効果的だと思いますか（複数回答可）

- ◆効果的な特定健診の受診PRは、国民健康保険加入者では「テレビのCM」45.4%、「自治会の回覧板」43.1%、「市町や会社の広報誌」35.6%の順である。他の医療保険加入者では、テレビ、新聞、ラジオといったマスメディアによるPRを挙げた人が多い。
- ◆国民健康保険加入者の特徴をあげると、「テレビのCM」は年齢の低い層、「自治会の回覧板」は年齢の高い層で効果があるとする傾向が見られる。地域別では、伊豆で「市町や会社の広報誌」を挙げた人が51.6%に上ったことが目立っている。

<数表編 25 頁参照>



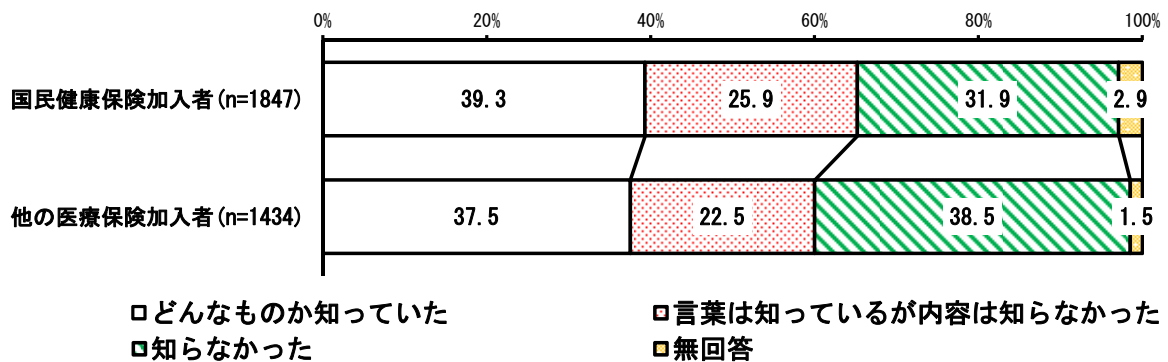
3 特定保健指導

①特定保健指導の認知度

問 19 特定保健指導を知っていますか

- ◆特定保健指導の認知度は、国民健康保険加入者では「どんなものか知っていた」39.3%、「言葉は知っているが内容は知らなかった」25.9%で、合わせて65.2%の人が「知っていた」と答えた。一方、他の医療保険加入者では60.0%である。
- ◆国民健康保険加入者をみると、年齢別で40歳代の「知らなかった」が46.4%と高い。健康状態別にみると、特定健診を知っている人ほど健康状態が良いと回答する人が多くなる。

<数表編 27 頁参照>

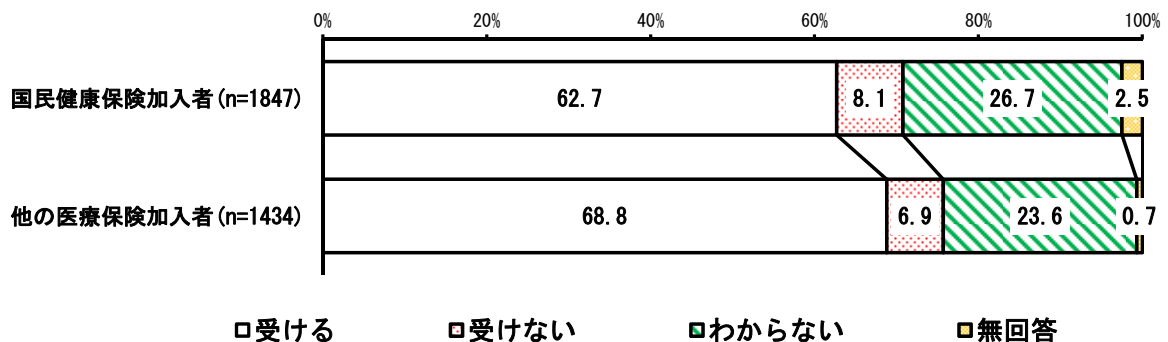


②指導対象となったときの利用意向

問 20 特定保健指導の対象になった場合、あなたは受けますか

- ◆特定保健指導対象者となった場合は、国民健康保険加入者では「受ける」と答えた人が62.7%、他の医療保険加入者では68.8%である。
- ◆国民健康保険加入者で利用意向が高いのは、年齢別は高い年代、健康状況別は健康状況が良い層である。また、国民健康保険加入者の特定健診受診経験別では受診経験者は71.3%が利用すると答えたのに対し、受診未経験者は47.1%と低い。

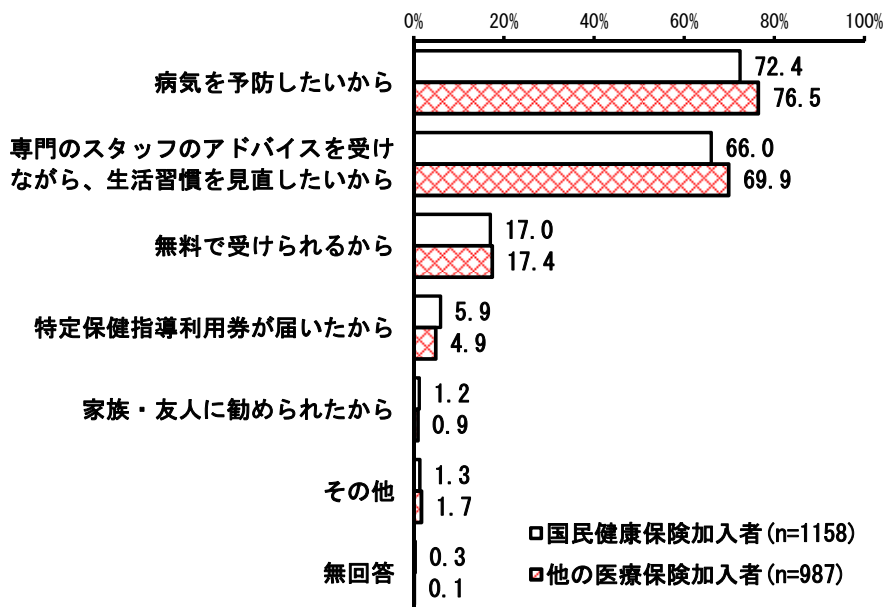
<数表編 28 頁参照>



③特定保健指導を利用する理由

問21 問20で「1. 受ける」と答えた方にお伺いします
理由は何ですか（複数回答可）

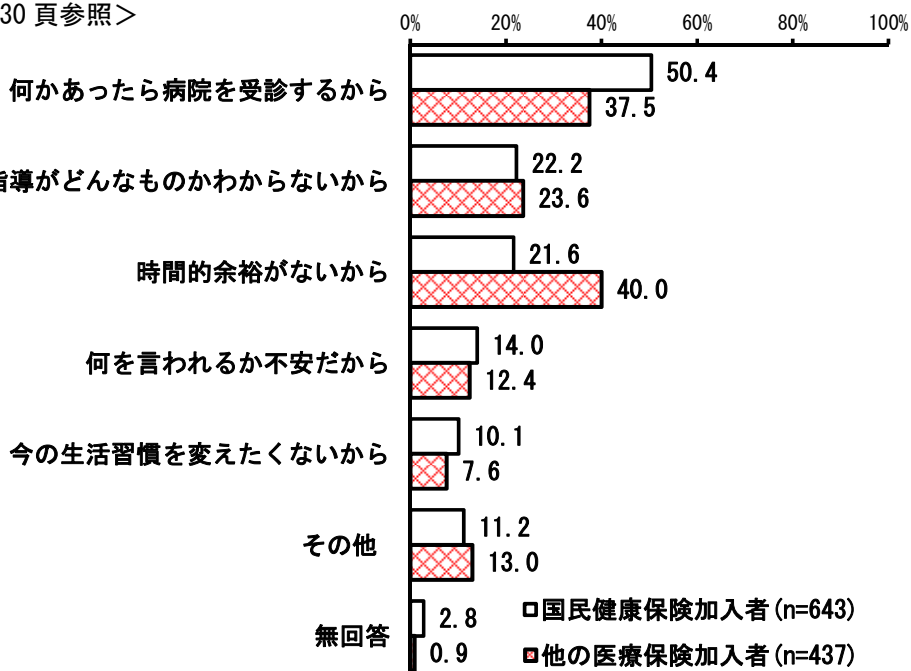
◆特定保健指導を利用する理由は、国民健康保険加入者では「病気を予防したいから」、「専門のスタッフのアドバイスを受けながら、生活習慣を見直したいから」を挙げる人が順に72.4%・66.0%と多かった。他の医療保険加入者でも、ほぼ同様の結果である。
<数表編 29 頁参照>



④特定保健指導を利用しない理由

問22 問20で「2. 受けない」「3. わからない」と答えた方にお伺いします
理由は何ですか（複数回答可）

◆特定保健指導を受診しない理由は、国民健康保険加入者では「何かあったら病院を受診するから」と答えた人が50.4%と高く、次いで「特定保健指導がどんなものかわからないから」22.2%、「時間的余裕がないから」21.6%である。他の医療保険加入者では「時間的余裕がないから」が40.0%と最も高い。
<数表編 30 頁参照>

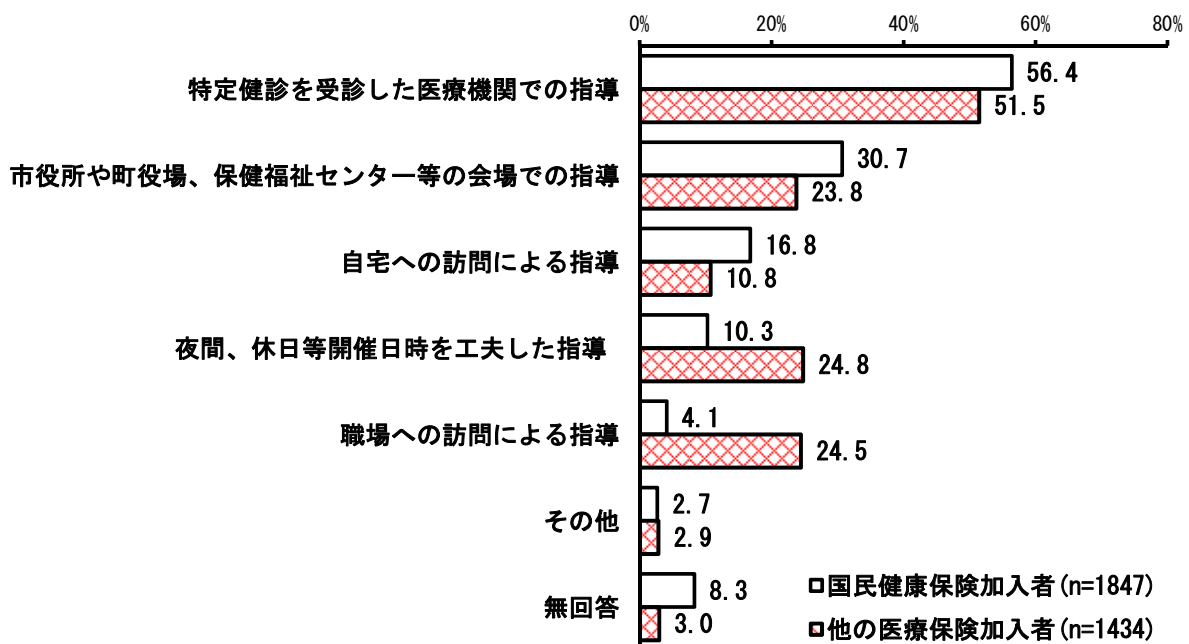


⑤特定保健指導を利用しやすい体制・内容

問 23 特定保健指導を受ける場合、あなたにとって受けやすい方法はどれですか (複数回答可)

◆特定保健指導を利用しやすい体制・内容は、国民健康保険加入者では「特定健診を受診した医療機関での指導」を挙げた人が56.4%と最も多く、次いで、「市役所や町役場、保健福祉センター等の会場での指導」30.7%、「自宅への訪問による指導」16.8%の順である。一方、他の医療保険加入者では、「夜間、休日等開催日時を工夫した指導」24.8%と「職場への訪問による指導」24.5%を挙げた人が多い。

<数表編 31 頁参照>



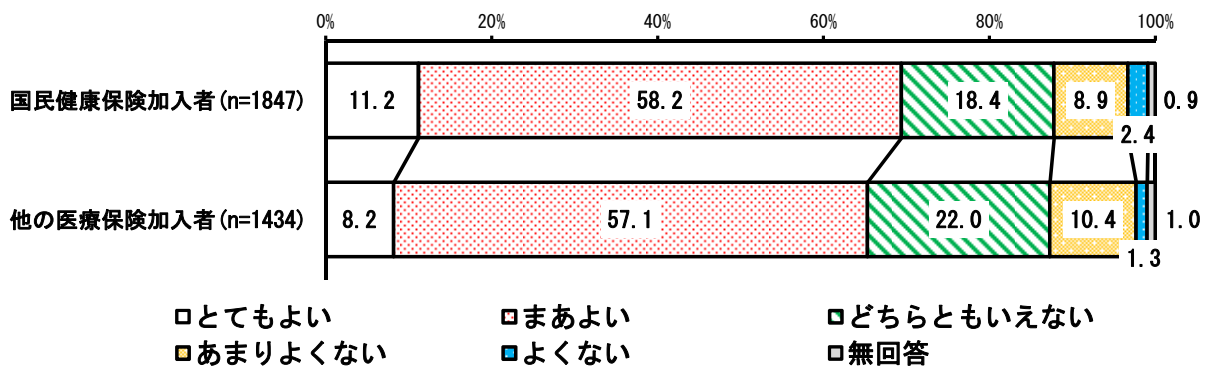
4 健康状態や生活習慣

①健康状態

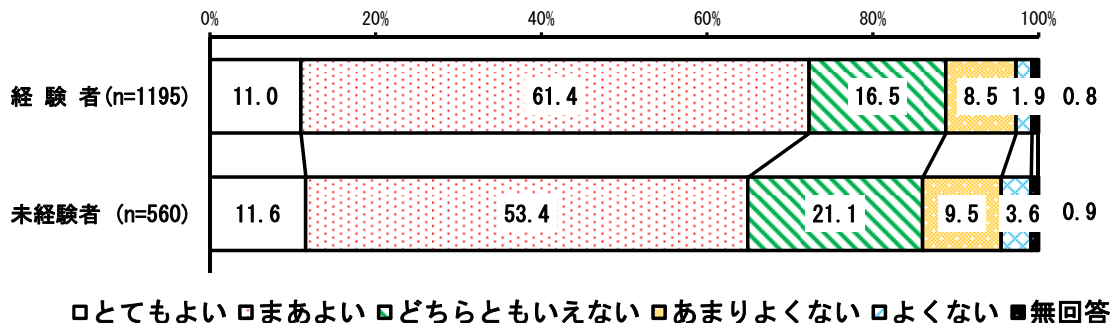
問 36 あなたの現在の健康状態はいかがですか

- ◆現在の健康状態は、国民健康保険加入者では「とてもよい」11.2%、「まあよい」58.2%と、よいとした人が合わせて69.4%であった。健康状態がよくないと自己診断しているのは「よくない」2.4%と「あまりよくない」8.9%を合わせた11.3%である。他の医療保険加入者では健康状態がよいと自己診断しているのは計65.3%、よくないは計11.7%である。
- ◆国民健康保険加入者を年齢別で見ると、健康状態がよくないと自己診断しているのは50歳代（計14.9%）、40歳代（計14.5%）に多い。
- ◆国民健康保険加入者で、特定健診経験者と未経験者を比べると、経験者は健康状態がよいは72.4%（「とてもよい」11.0%と「まあよい」61.4%）であり、健康状態がよくないは10.4%（「よくない」1.9%と「あまりよくない」8.5%）である。一方、未経験者は健康状態がよいは65.0%（「とてもよい」11.6%と「まあよい」53.4%）、健康状態がよくない13.1%（「よくない」3.6%と「あまりよくない」9.5%）で、経験者の方が、自己診断ではやや良好といえる。

<数表編 44頁参照>



国民健康保険加入者の特定健診利用経験の有無別



②健康状態や生活習慣

※問 24 から問 37 まで（問 33 は飲酒量なので除く）の集計結果により、国民健康保険加入者の特定健診受診経験者と未経験者の生活習慣や意識の違いを傾向分析した。集計（分析）は、質問ごとに健康に良い行動をみるため、回答肢によっては「いいえ」を使いグラフなどを作成している。

良い行動	質問文
いいえ	問24 現在たばこを習慣的に喫煙していますか
いいえ	問25 20歳の時の体重から10kg以上増加していますか
はい	問26 1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施していますか
はい	問27 日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施していますか
はい	問28 ほぼ同じ年齢の同性と比較して歩く速度が速いですか
いいえ	問29 人と比較して食べる速度が速いですか
いいえ	問30 朝食を抜くことが週3回以上ありますか
※1	問31 食事の栄養バランスに気をつけていますか
※2	問32 お酒を飲む頻度はどれくらいですか
いいえ	問34 この1か月間に、不満、不安、悩み、苦労などによるストレスを感じたことがありましたか
はい	問35 睡眠で休養が十分とれていますか
※3	問36 あなたの現在の健康状態はいかがですか
はい	問37 かかりつけの医師がいますか

※1 問31食事の栄養バランスで良い行動に区分したのは 「1.気をつけている」+「2.少々気をつけている」

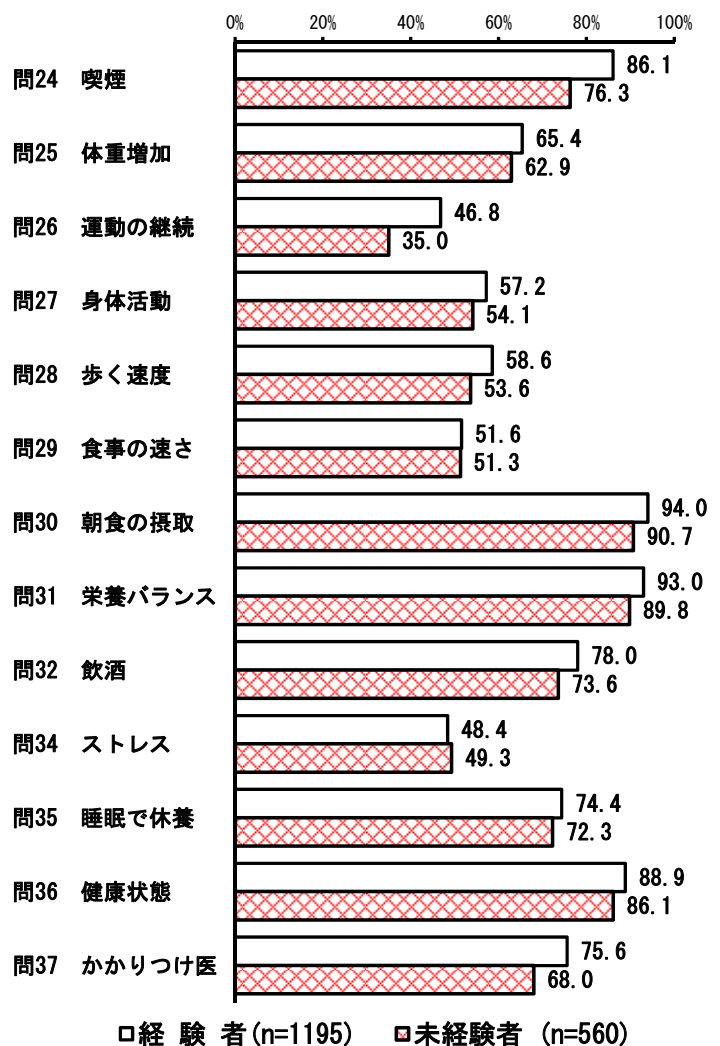
※2 問32飲酒頻度で良い行動に区分したのは 「2.時々」+「3.ほとんど飲まない（飲めない）」

※3 健康状態で良い行動に区分したのは 「1.とてもよい」+「2.まあよい」+「3.どちらともいえない」

◆国民健康保険加入者で、特定健診の受診経験者と未経験者を比べたとき乖離が大きいのは、「喫煙」と「運動の継続＝1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上」である。

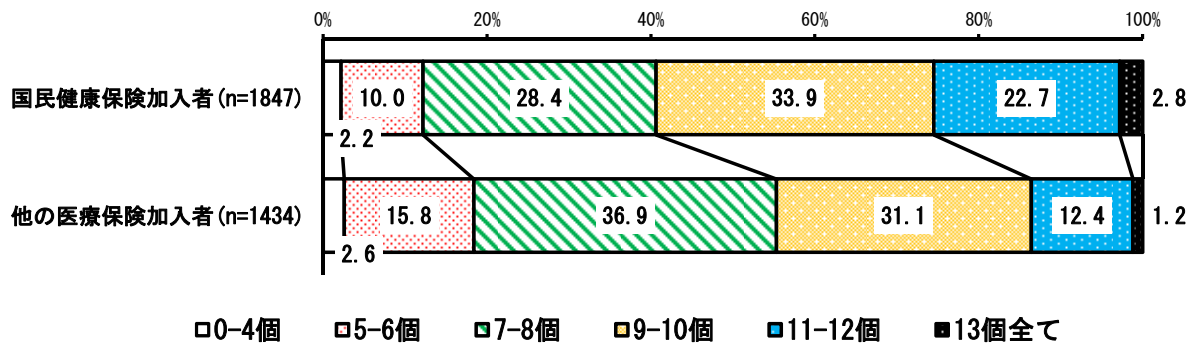
◆「ストレス」で未経験者がやや高いとはいえ、健康状態や生活習慣は、特定健診経験者の方が良好である。

<数表編 32～45 頁参照>



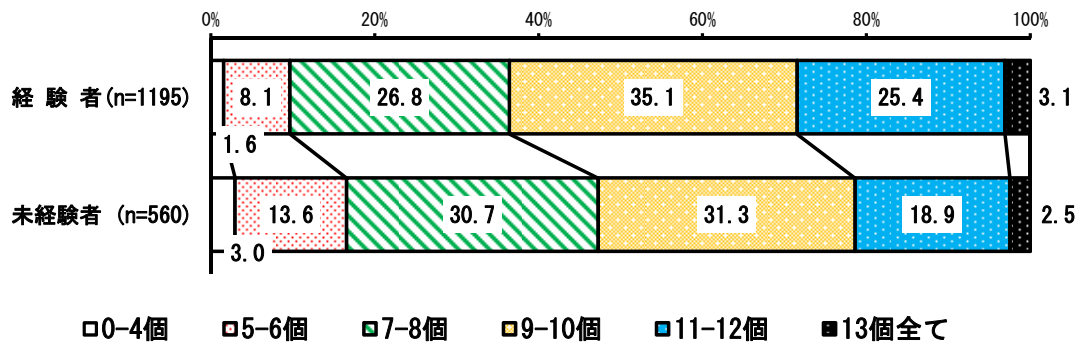
<調査結果報告書>

- ◆問 33（飲酒量の質問）を除いた問 24 から問 37 まで 13 の項目で、項目ごとに健康に良い行動をしている数（品数）を数えて集計した結果は、国民健康保険加入者の最頻値は「9-10 個」で 33.9%、平均で 8.96 項目が当てはまる。一方、他の医療保険加入者の最頻値は「7-8 個」で 36.9%、平均 8.28 項目である。
 <数表編 46 頁参照>



- ◆国民健康保険加入者の特定健診受診経験別でみると、特定健診受診経験者の最頻値は「9-10 個」で 35.1%、平均で 9.18 項目が当てはまる。未経験者の最頻値も「9-10 個」で 31.3%であるが、低い品数に傾斜しており平均 8.63 項目である。
 <数表編 46 頁参照>

国民健康保険加入者の特定健診受診経験の有無別



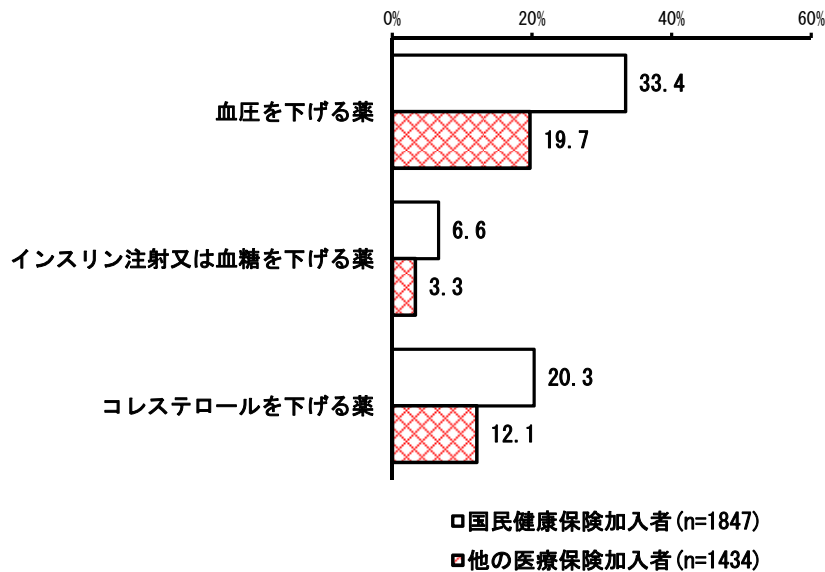
③使用している薬

問 38 現在以下の薬を使用していますか、使用しているものすべてに○をつけてください

◆国民健康保険加入者では「血圧を下げる薬」が33.4%で最も多く、「コレステロールを下げる薬」20.3%、「インスリン注射又は血糖を下げる薬」6.6%の順となる。他の医療保険加入者でも順位は同じであるが、国民健康保険加入者の方がそれぞれの薬の使用率が高い。

◆年齢別でみると、いずれの医療保険加入者も年齢が高くなると使用率が高くなる傾向がみられる。

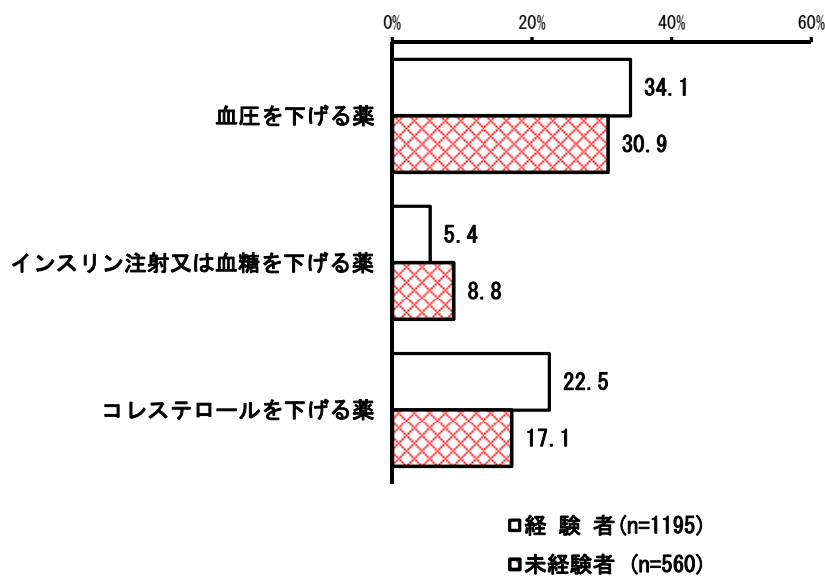
<数表編 47 頁参照>



◆国民健康保険加入者の特定健診受診経験別でみると、特定健診受診経験者の方がこれらの薬を使用する率は高いようである。

<数表編 47 頁参照>

国民健康保険加入者の特定健診受診経験の有無別

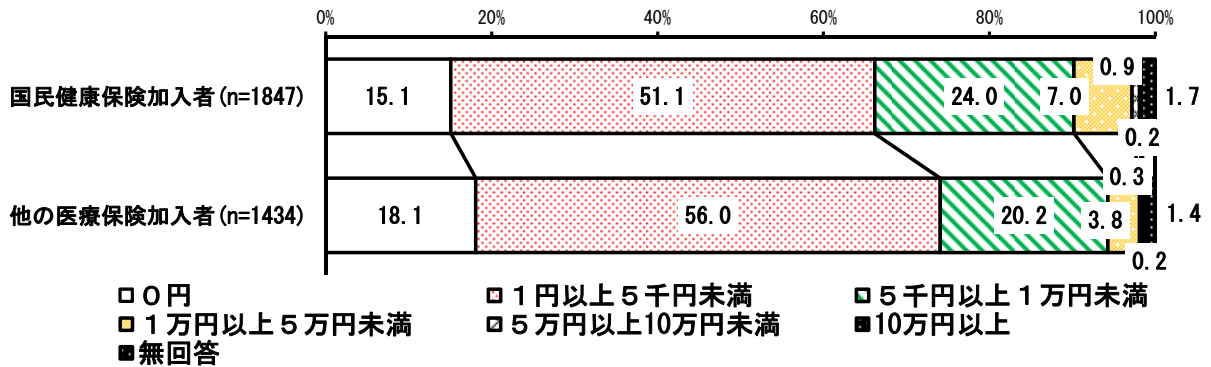


④ 1か月の医療費額

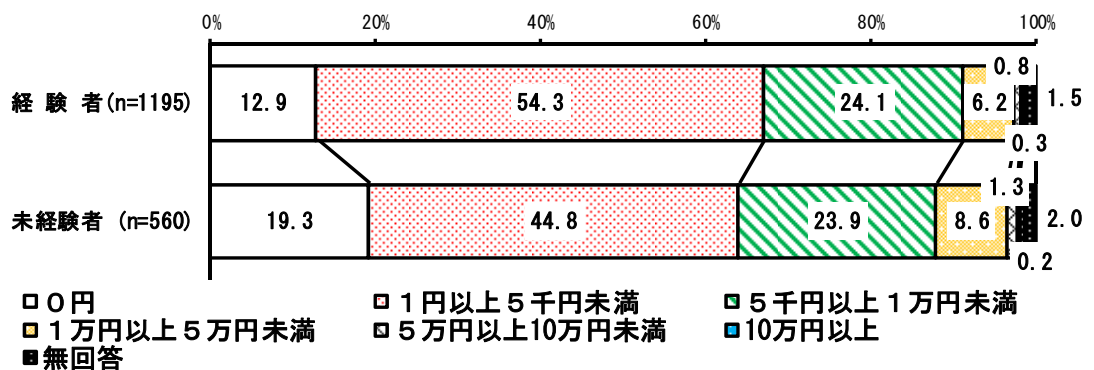
問 39 平均すると1か月で診察、入院、薬代にどのくらい(自己負担で)支出しますか

◆月平均の医療金額(自己負担分)では、国民健康保険加入者は「1円~5,000円未満」が最頻値で51.1%、次が「5,000円~10,000円未満」24.0%。「0円」は15.1%である。他の医療保険加入者は「1円~5,000円未満」が最頻値で56.0%、次が「5,000円~10,000円未満」20.2%。「0円」は18.1%である。国民健康保険加入者は10,000円以上の負担者が8.1%で、他の医療保険加入者4.3%よりも多い。

<数表編 48頁参照>



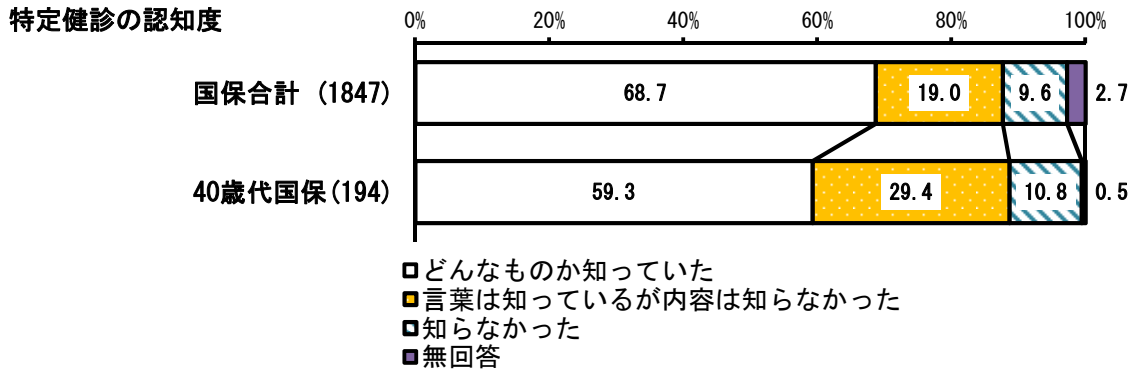
国民健康保険加入者の特定健診受診経験の有無別



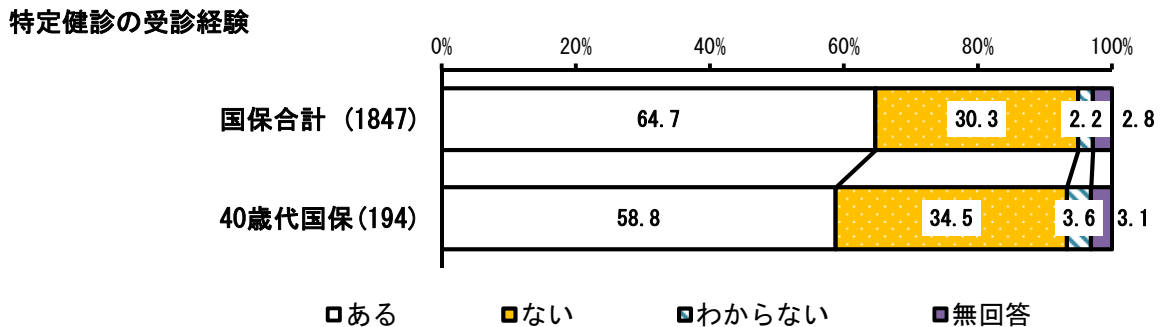
Ⅲ 国民健康保険加入者の年代別特定健康診査受診実態要約

①40 歳代要約

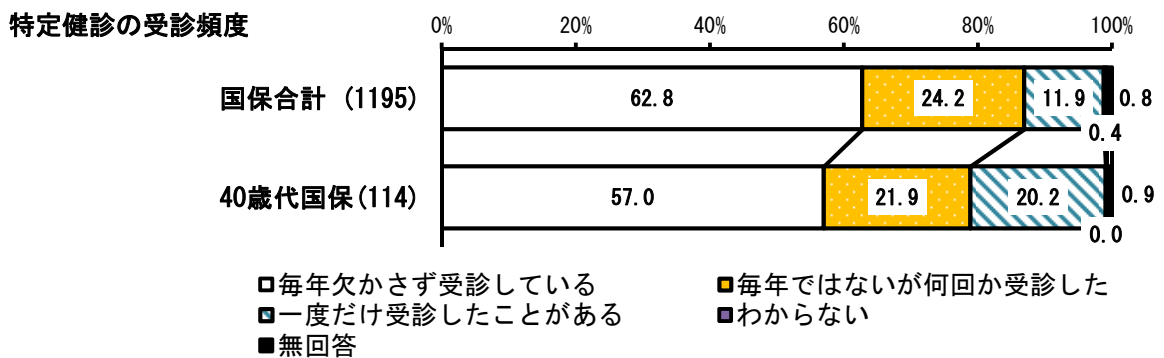
◆国民健康保険に加入している40歳代の特定健診認知度は59.3%と低い。



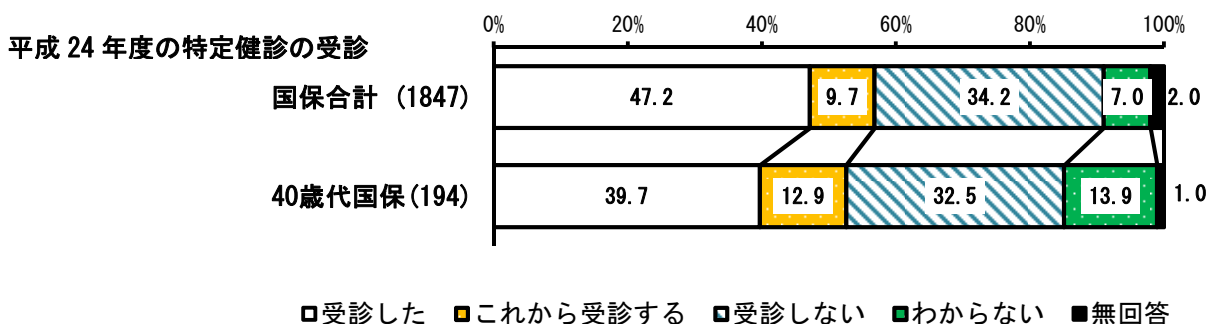
◆特定健診の受診経験は58.8%である。認知度とほぼ同じ数値で、“特定健診の認知が高くなると、受診率も高くなる”とのみかたもできるのであろう。



◆特定健診の受診頻度は、「毎年欠かさず受診している」は57.0%、「毎年ではないが何回か受診した」21.9%で、「一度だけ受診したことがある」は20.2%とリピートが全体に比べて低いようである。



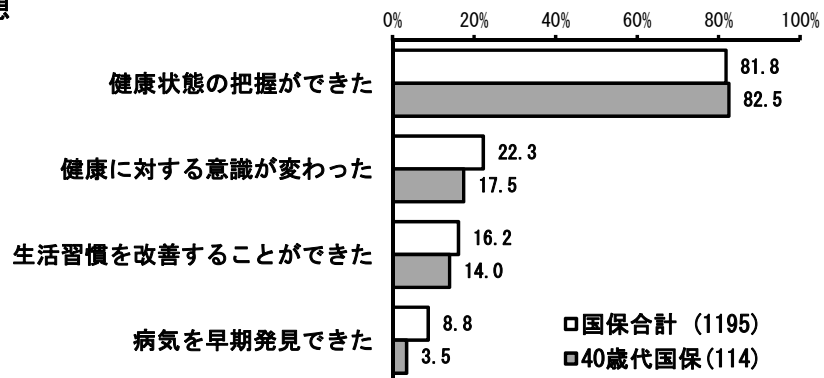
◆平成24年度の特定健診の受診は、「受診した」39.7%、「これから受診する」12.9%を合わせた52.6%が受診率になると思われる。受診率向上は、「わからない」13.9%へのアプローチ策がポイントになりそうだ。



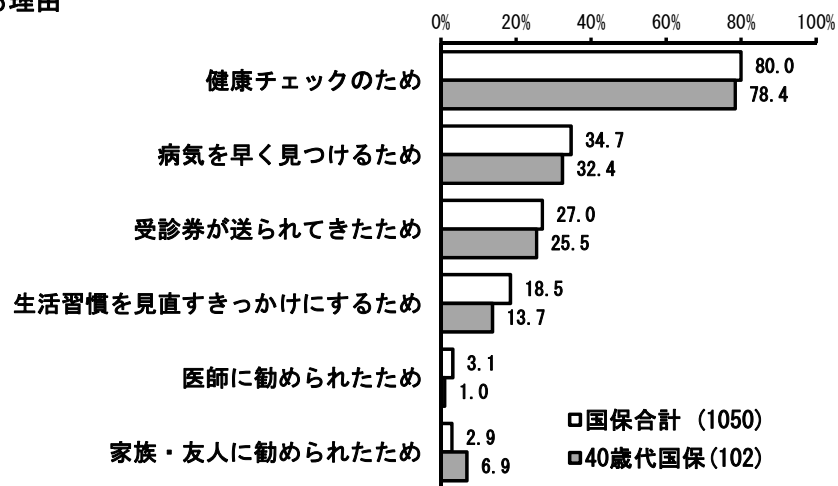
<調査結果報告書>

◆特定健診を受診した感想は、「健康状態の把握ができた」82.5%が大勢である。40歳代では、「健康に対する意識が変わった」は17.5%とやや低い。また、特定健診の受診理由は「健康チェックのため」78.4%、「病気を早く見つけるため」が32.4%である。

特定健診を受診した感想

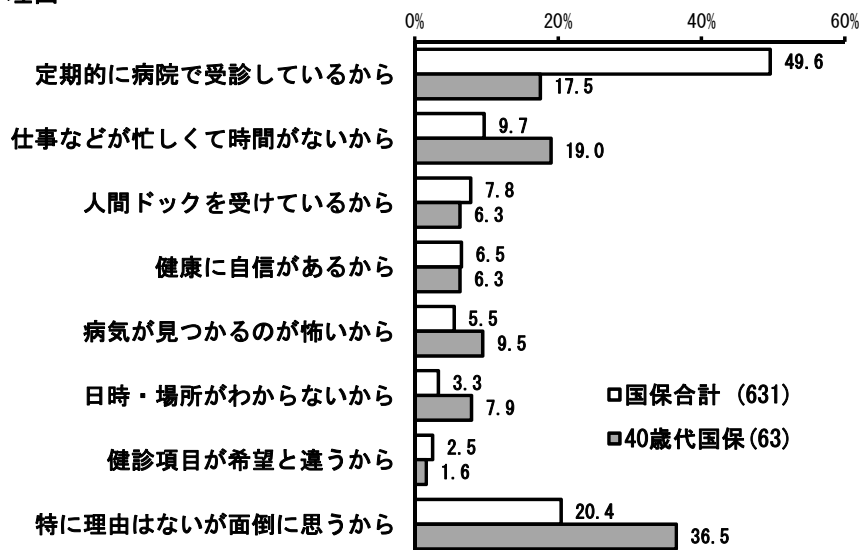


特定健診を受診する理由



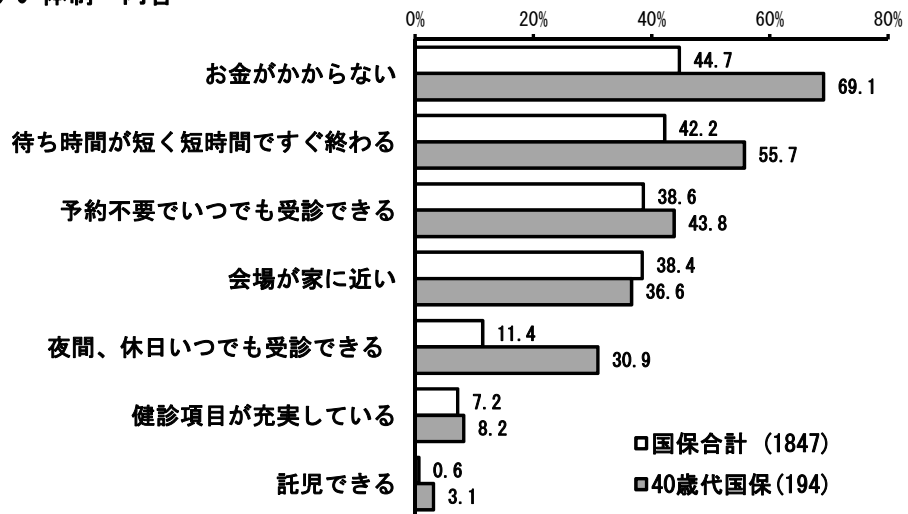
◆特定健診を受診しない理由は、「特に理由はないが面倒に思うから」36.5%が最も高く、次いで「仕事などが忙しくて時間がないから」が19.0%である。

特定健診を受診しない理由



- ◆特定健診を受診しやすい体制・内容は、40歳代は各項目で全体と比べて高い。中でも、40歳代の有職率が76.8%と高いことから、「待ち時間が短時間ですぐ終わる」55.7%、「夜間、休日いつでも受診できる」30.9%が高い。

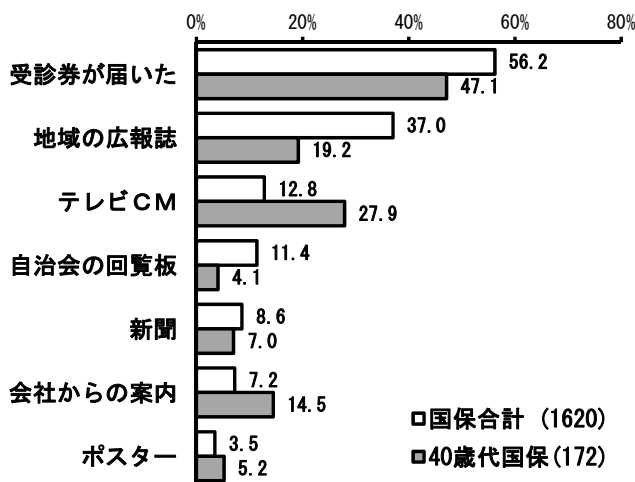
特定健診を受診しやすい体制・内容



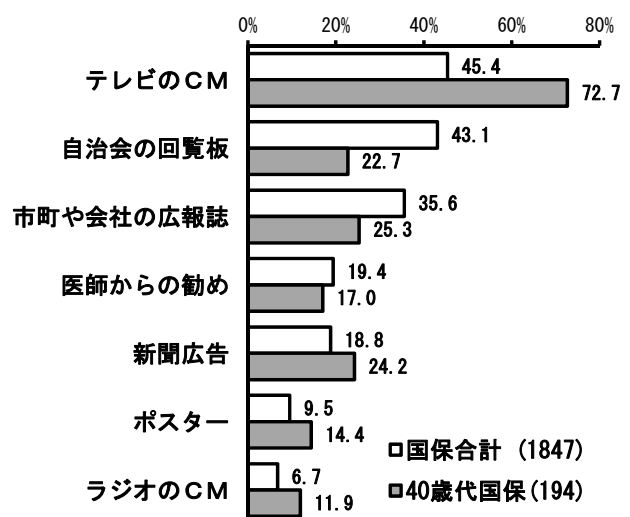
- ◆特定健診の認知経路は「受診券」を受け取ることで知る人が最も多く47.1%である。「テレビCM」で知る人が27.9%と全体に比べ高く、「地域の広報誌」19.2%や「自治会の回覧板」4.1%で知る人は低い。

- ◆40歳代全員に質問した特定健診の効果的なPRの結果も、同様の傾向である。

特定健診の認知経路

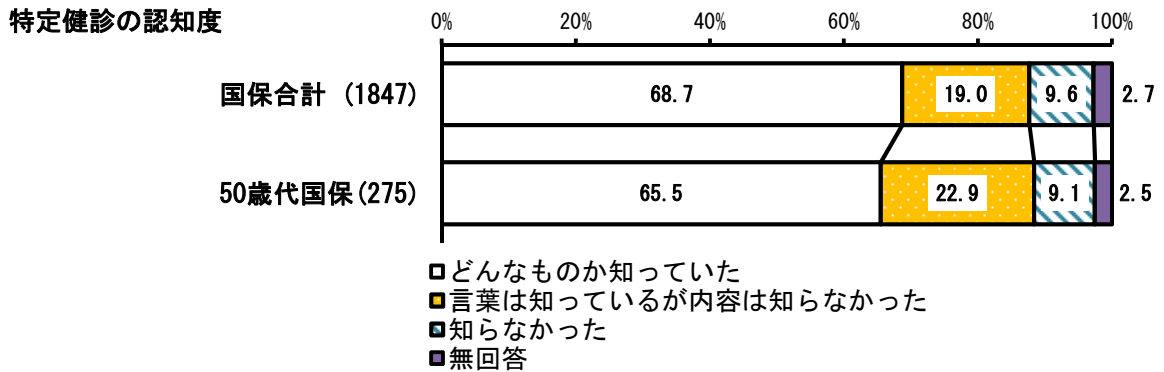


特定健診の効果的なPR

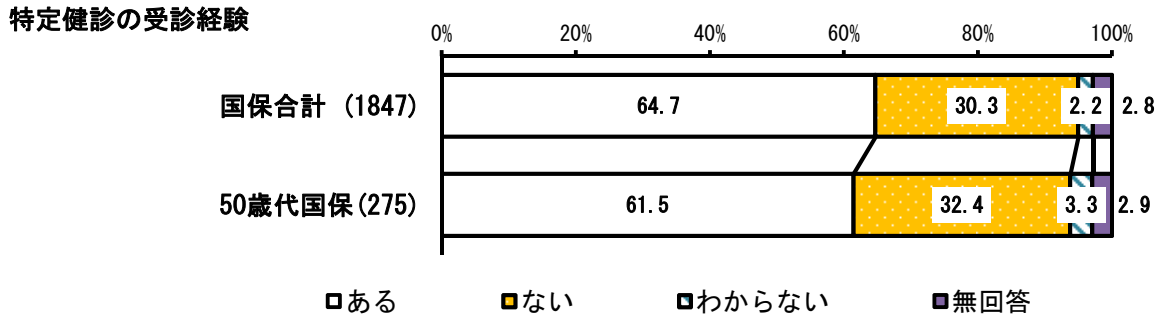


②50 歳代要約

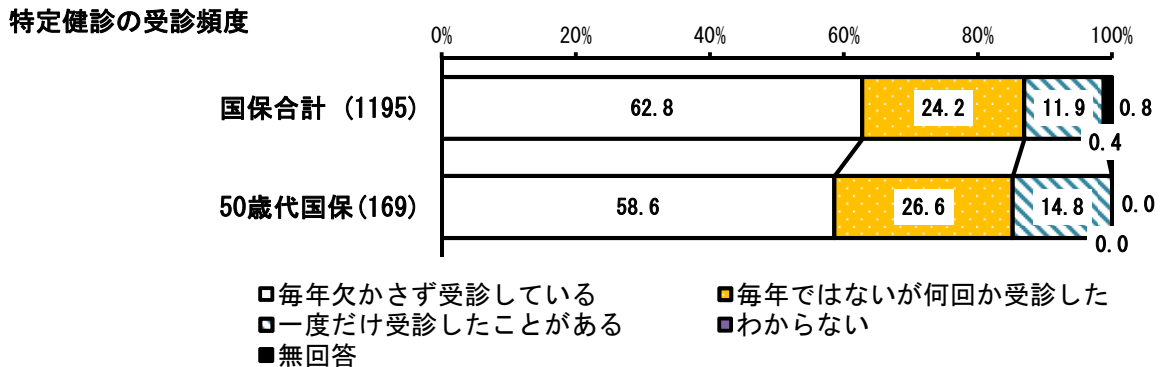
- ◆国民健康保険に加入している 50 歳代の特定健診認知度は「どんなものか知っていた」65.5%、「言葉は知っているが内容は知らなかった」22.9%で、合わせて 88.4%である。



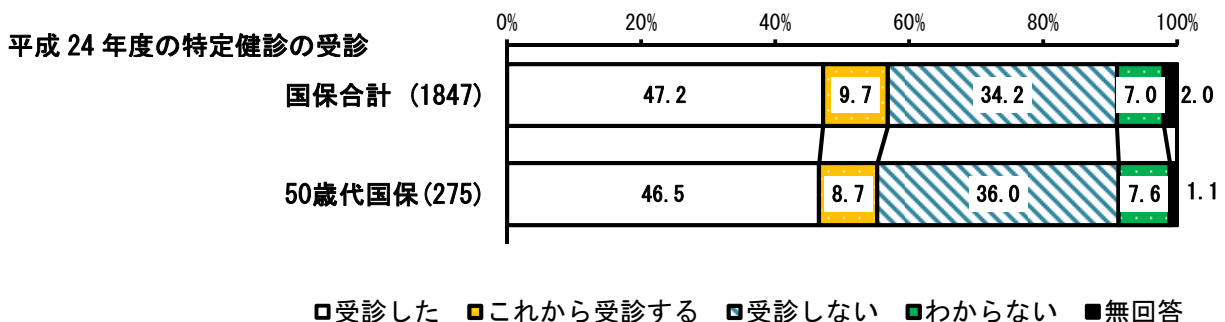
- ◆特定健診の受診経験は 61.5%である。認知度の「どんなものか知っていた」とほぼ同じ数値で、“特定健診の認知が高くなると、受診率も高くなる”とのみかたもできるのであろう。



- ◆特定健診の受診頻度は、「毎年欠かさず受診している」は 58.6%、「毎年ではないが何回か受診した」26.6%で、「一度だけ受診したことがある」は 14.8%とリピートは全体と同程度の結果である。

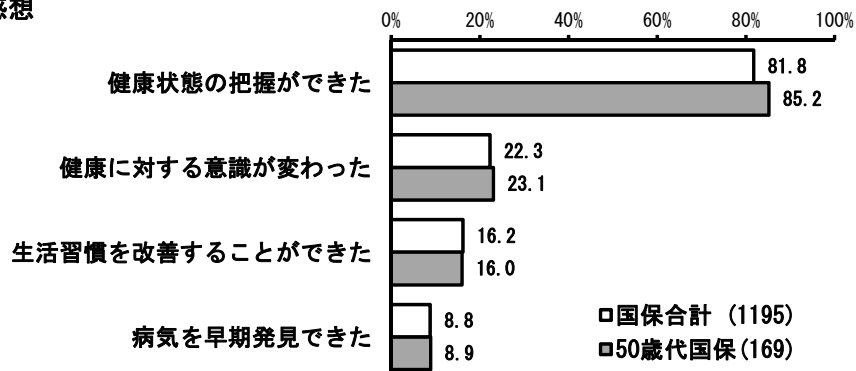


- ◆平成 24 年度の特定健診の受診は、「受診した」46.5%、「これから受診する」8.7%を合わせた 55.2%が受診率になると思われる。「受診しない」と明確な意思の表示は 36.0%である。

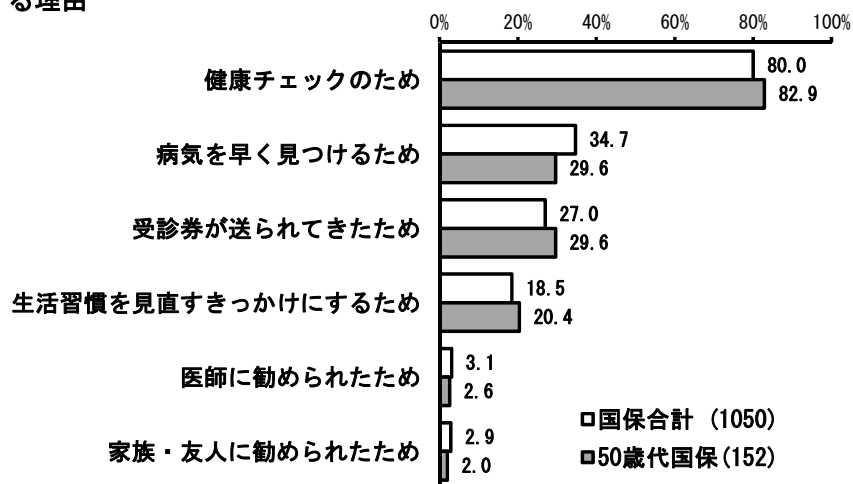


◆特定健診を受診した感想は、「健康状態の把握ができた」85.2%、「健康に対する意識が変わった」23.1%である。受診する理由も、「健康チェックのため」82.9%、「病気を早く見つけるため」29.6%で、「生活習慣を見直すきっかけにするため」は20.4%と全体に比べやや高い。

特定健診を受診した感想

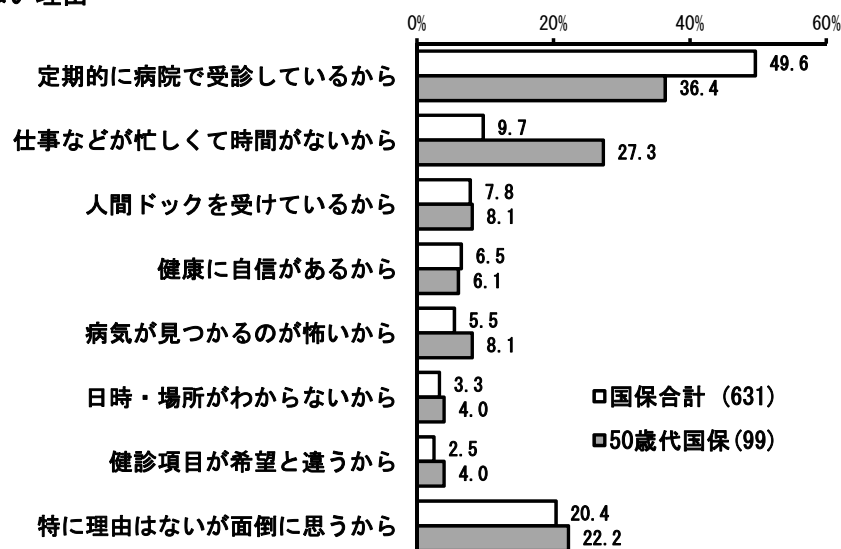


特定健診を受診する理由



◆特定健診を受診しない理由は、「定期的に病院で受診しているから」36.4%が最も高く、次いで「仕事などが忙しくて時間がないから」27.3%、「特に理由はないが面倒に思うから」22.2%の順である。

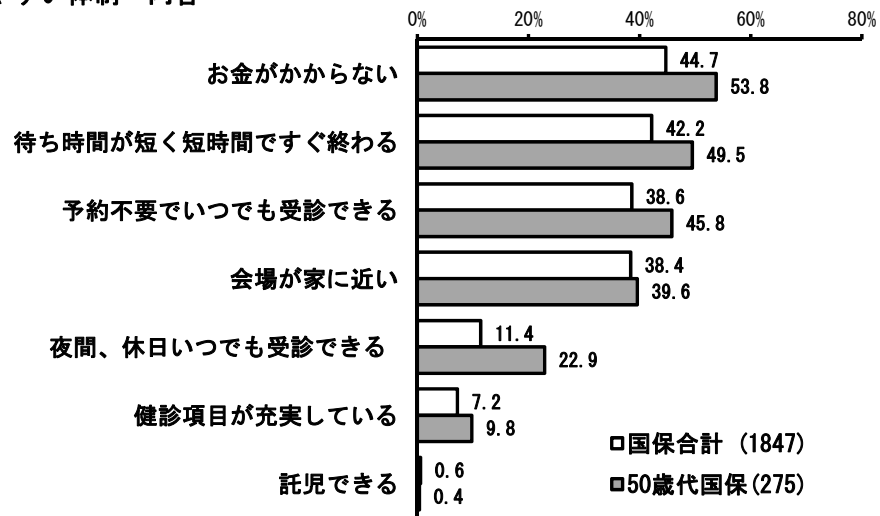
特定健診を受診しない理由



<調査結果報告書>

- ◆特定健診を受診しやすい体制・内容は、50歳代は各項目で全体と比べて高い。中でも、50歳代の有職率が68.4%と高いことから、「待ち時間が短時間ですぐ終わる」49.5%、「夜間、休日いつでも受診できる」22.9%が高い。

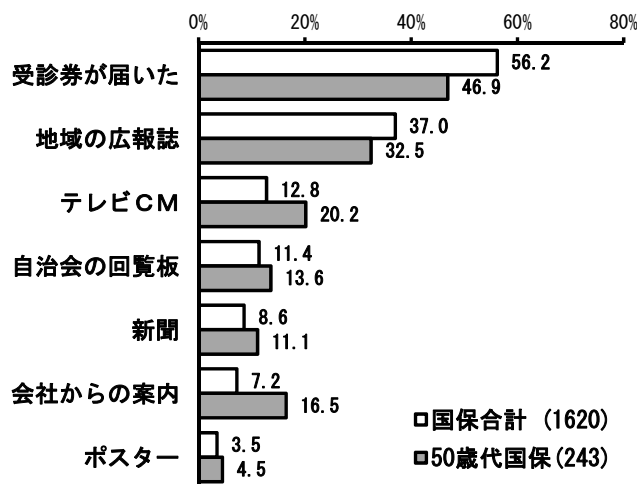
特定健診を受診しやすい体制・内容



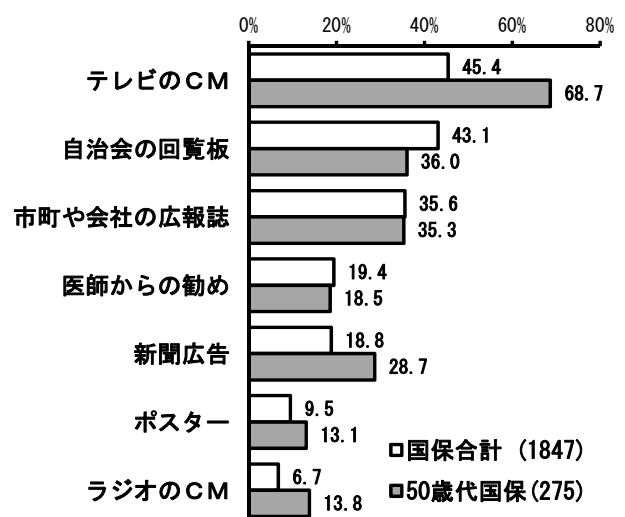
- ◆特定健診の認知経路は「受診券」を受け取ることで知る人が最も多く46.9%である。「テレビCM」20.2%、「会社からの案内」16.5%の2項目が全体に比べて高い。

- ◆50歳代全員に質問した特定健診の効果的なPRの結果も同様の傾向で、「テレビCM」は68.7%と突出している。

特定健診の認知経路



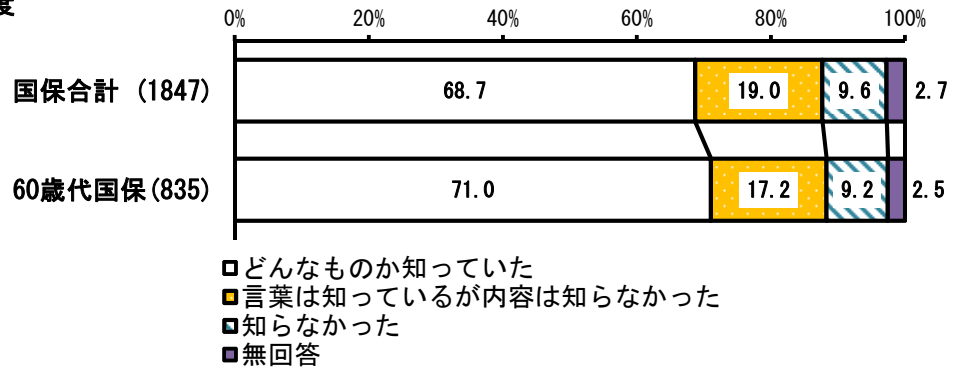
特定健診の効果的なPR



③60 歳代要約

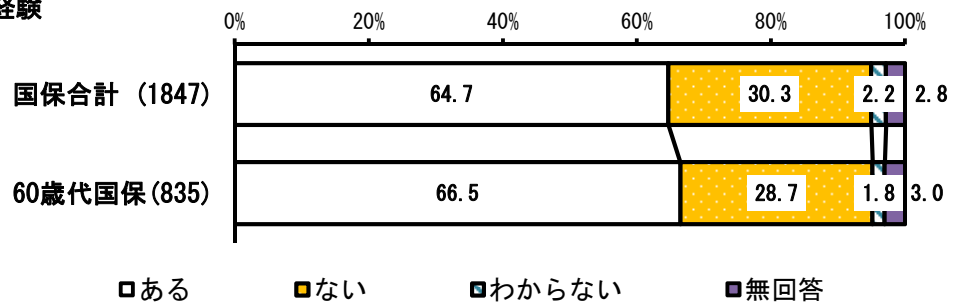
◆国民健康保険に加入している 60 歳代の特定健診認知度は「どんなものか知っていた」71.0%、「言葉は知っているが内容は知らなかった」17.2%で、合わせて 88.2%である。

特定健診の認知度



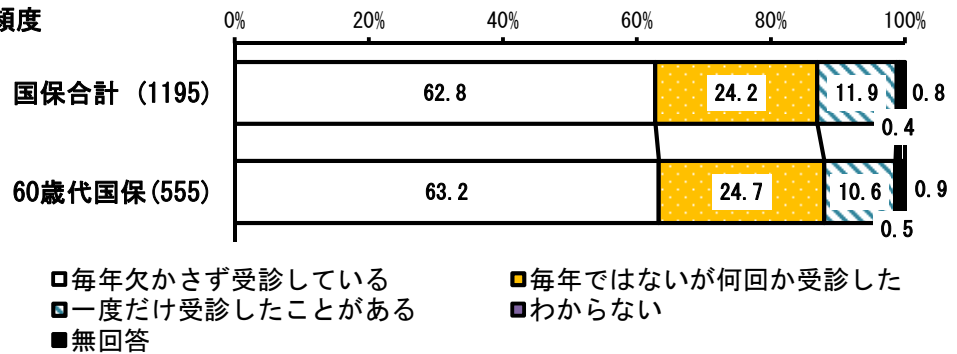
◆特定健診の受診経験は 66.5%である。

特定健診の受診経験



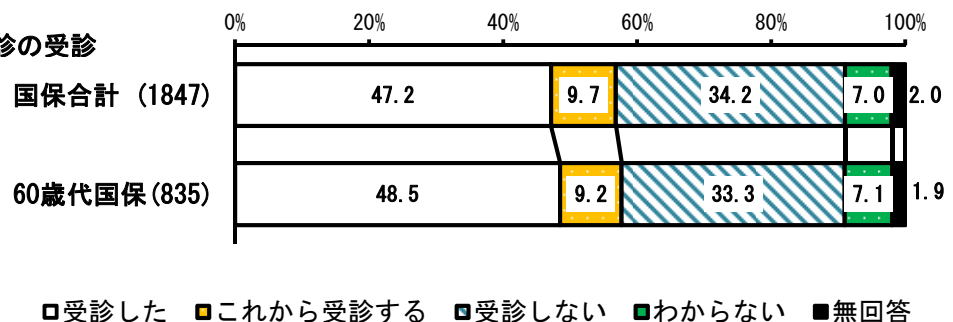
◆特定健診の受診頻度は、「毎年欠かさず受診している」は 63.2%、「毎年ではないが何回か受診した」24.7%で、「一度だけ受診したことがある」は 10.6%である。

特定健診の受診頻度



◆平成 24 年度の特定健診の受診は、「受診した」48.5%、「これから受診する」9.2%を合わせた 57.7%が受診率になると思われる。「受診しない」と明確な意思の表示は 33.3%である。

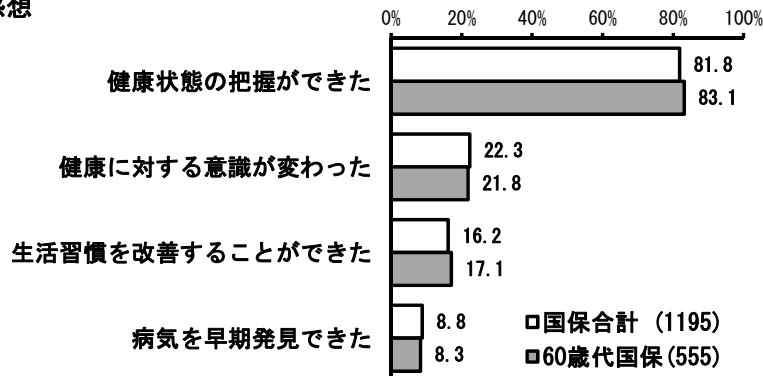
平成 24 年度の特定健診の受診



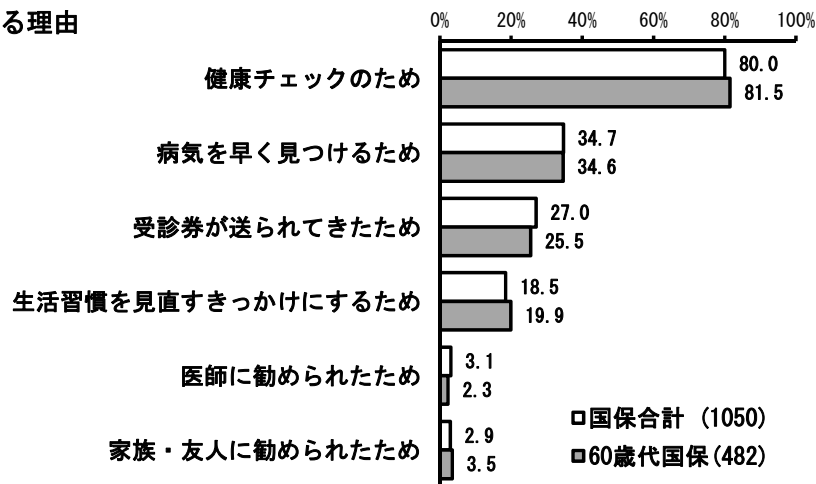
<調査結果報告書>

◆特定健診を受診した感想は、「健康状態の把握ができた」83.1%、「健康に対する意識が変わった」21.8%である。受診する理由も、「健康チェックのため」81.5%、「病気を早く見つけるため」34.6%で、「生活習慣を見直すきっかけにするため」は19.9%である。

特定健診を受診した感想

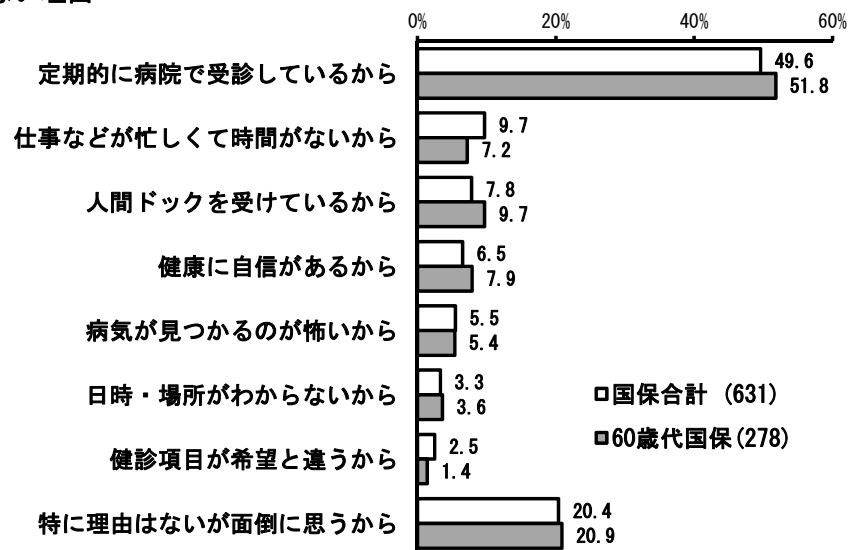


特定健診を受診する理由



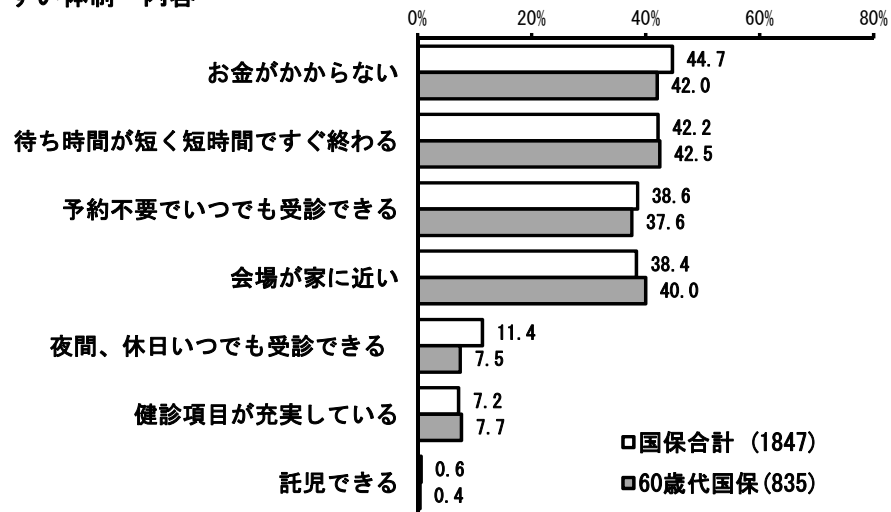
◆特定健診を受診しない理由は、「定期的に病院で受診しているから」51.8%が最も高い。

特定健診を受診しない理由



◆特定健診を受診しやすい体制・内容は、60歳代は各項目で全体と同様の結果である。中でも、50歳代までは低かった「会場が家に近い」が40.0%となる。

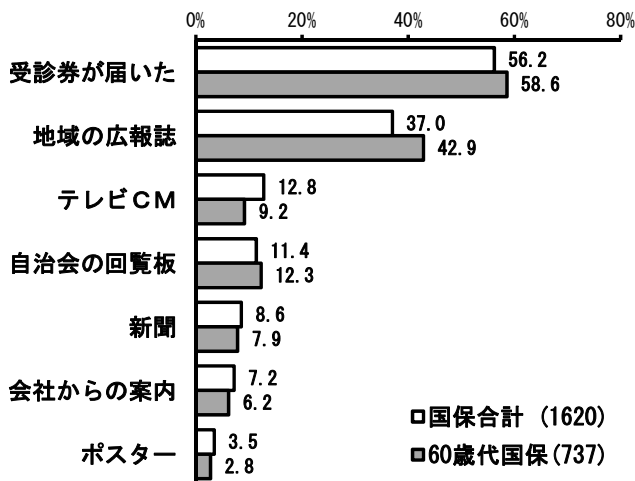
特定健診を受診しやすい体制・内容



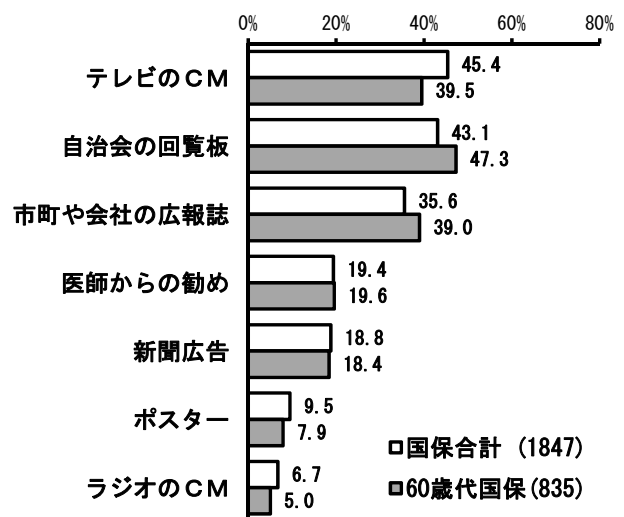
◆特定健診の認知経路は「受診券」を受け取ることで知る人が最も多く58.6%である。「地域の広報誌」が42.9%と全体に比べ高い。

◆60歳代全員に質問した特定健診の効果的なPRは、「自治会の回覧板」47.9%、「市町や会社の広報誌」39.0%が全体に比べ高い。

特定健診の認知経路

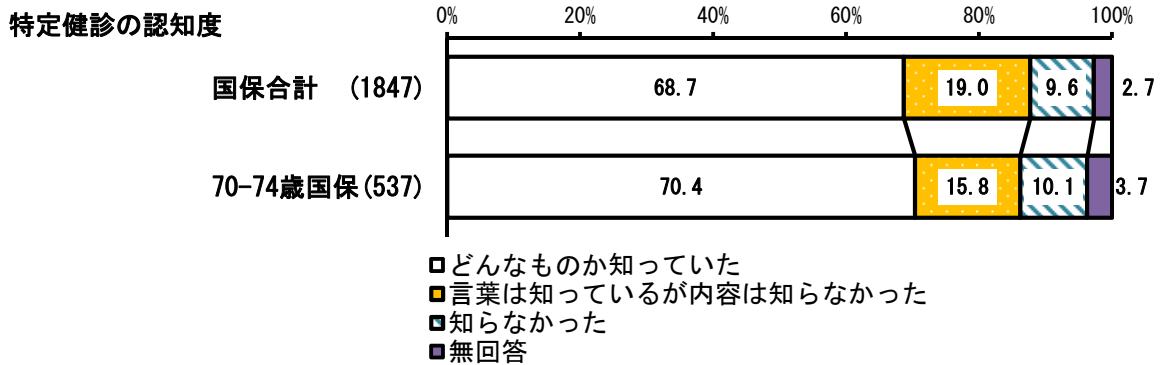


特定健診の効果的なPR

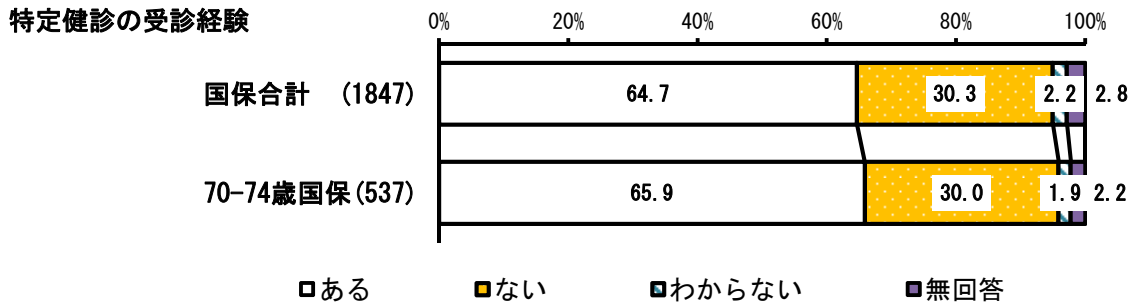


④70～74 歳要約

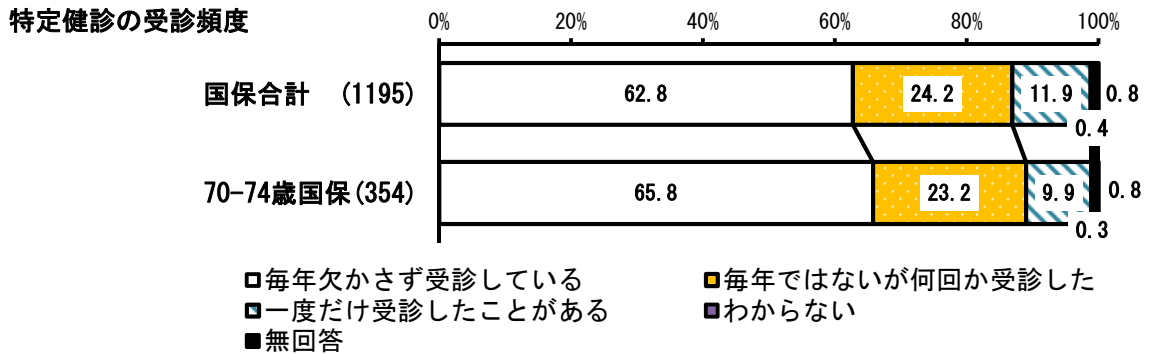
◆国民健康保険に加入している 70～74 歳の特定健診認知度は「どんなものか知っていた」70.4%、「言葉は知っているが内容は知らなかった」15.8%で、合わせて 86.2%である。



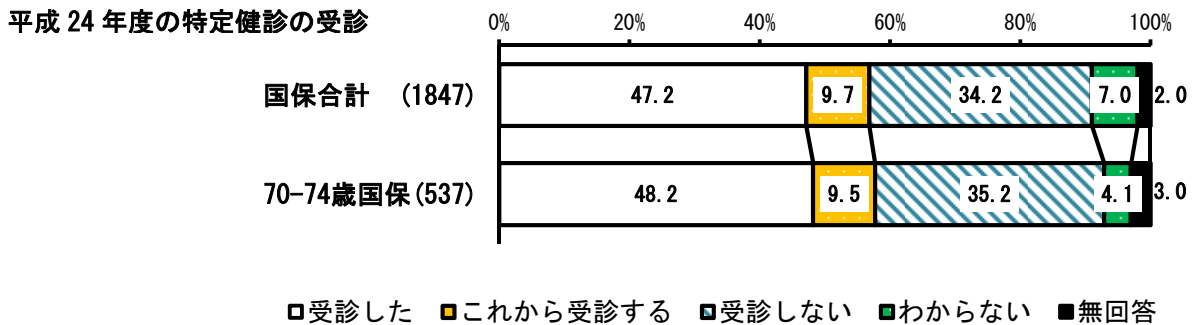
◆特定健診の受診経験は 65.9%である。



◆特定健診の受診頻度は、「毎年欠かさず受診している」は 65.8%、「毎年ではないが何回か受診した」23.2%で、「一度だけ受診したことがある」は 9.9%である。

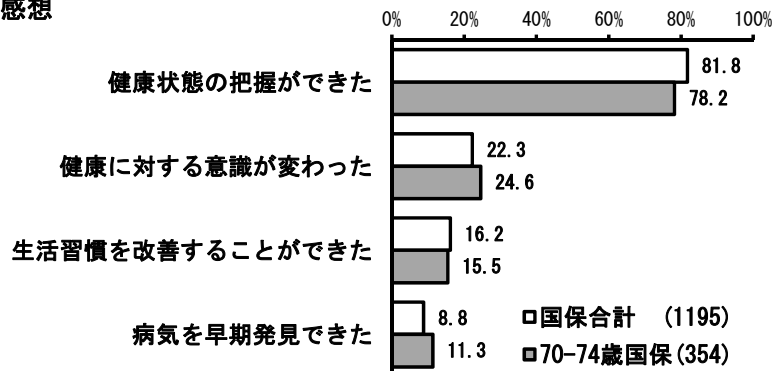


◆平成 24 年度の特定健診の受診は、「受診した」48.2%、「これから受診する」9.5%を合わせた 57.7%が受診率になると思われる。「受診しない」と明確な意思の表示は 35.2%である。

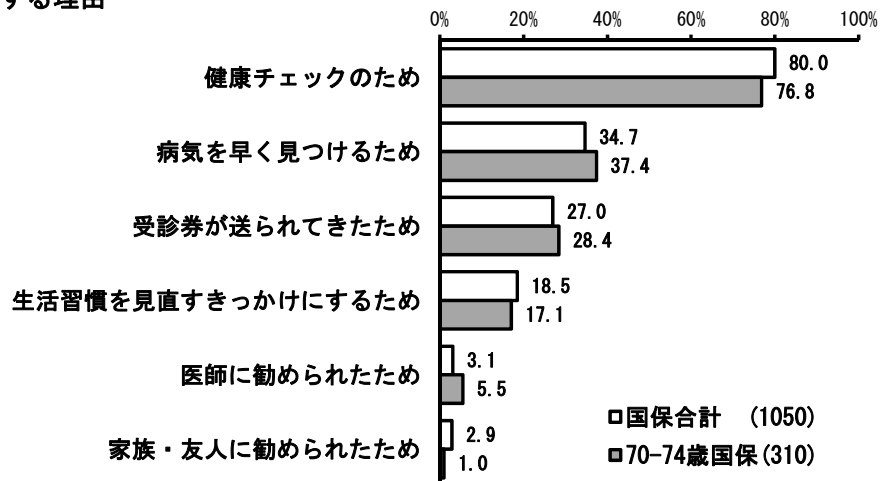


◆特定健診を受診した感想は、「健康状態の把握ができた」78.2%、「健康に対する意識が変わった」24.6%である。受診する理由も、「健康チェックのため」76.8%、「病気を早く見つけるため」37.4%で、「生活習慣を見直すきっかけにするため」は17.1%である。

特定健診を受診した感想

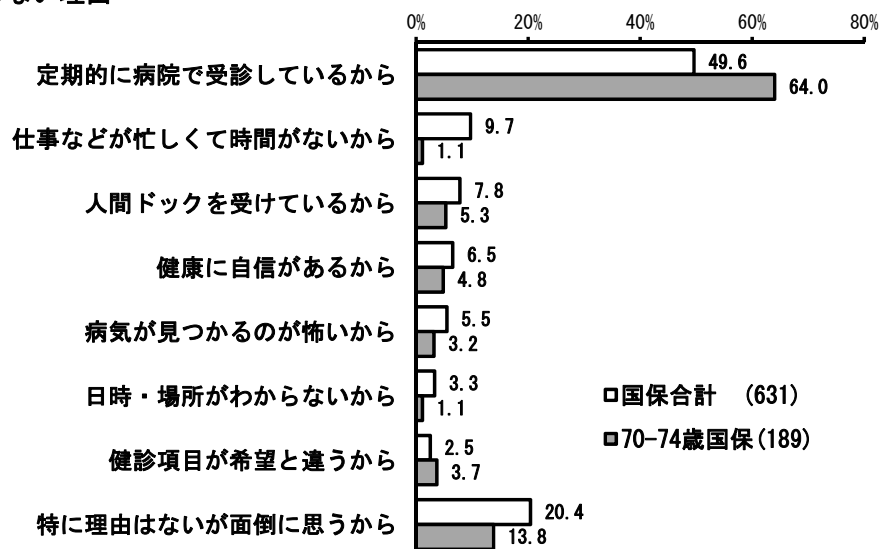


特定健診を受診する理由



◆特定健診を受診しない理由は、「定期的に病院で受診しているから」が64.0%と最も高く、全体と比べても顕著に高い。

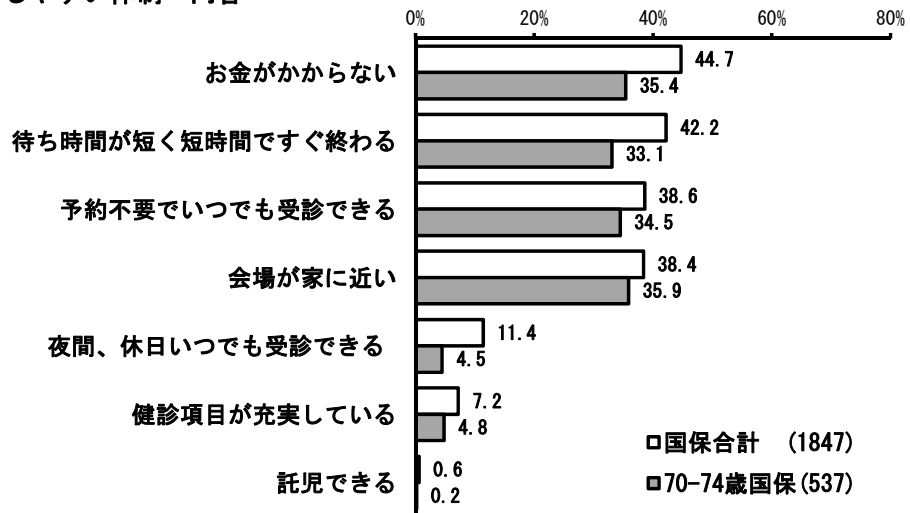
特定健診を受診しない理由



<調査結果報告書>

◆特定健診を受診しやすい体制・内容は、各項目で全体に比べ低い。

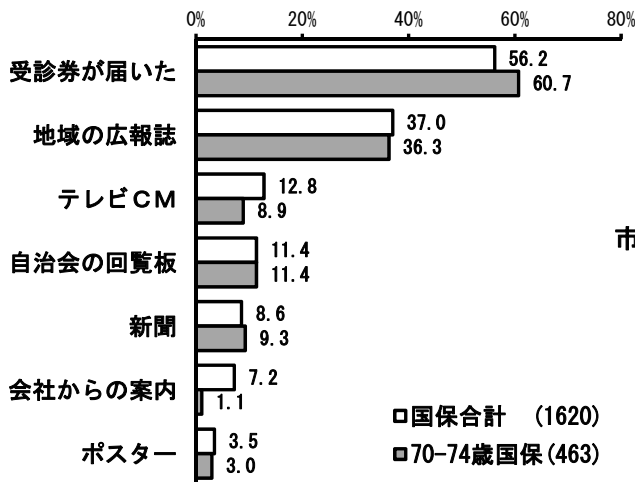
特定健診を受診しやすい体制・内容



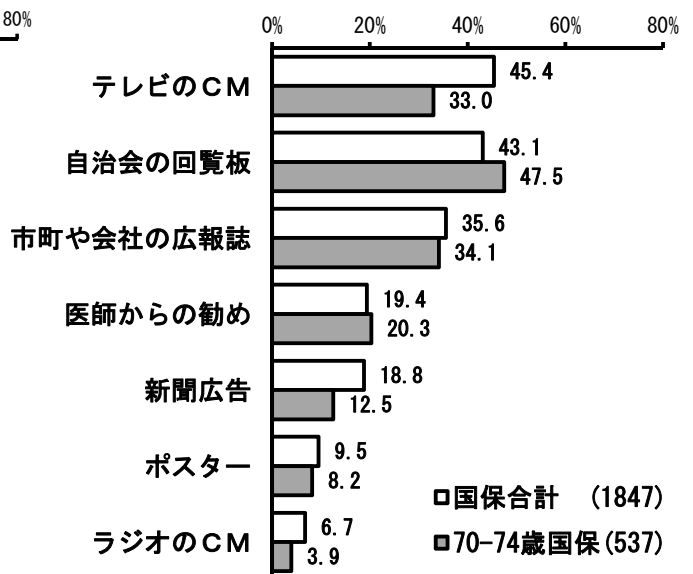
◆特定健診の認知経路は「受診券」を受け取ることで知る人が最も多く 60.7%で、全体と比べても高い。

◆70～74 歳全員に質問した特定健診の効果的なPRは、「自治会の回覧板」が 47.5%、「市町や会社の広報誌」 34.1%である。

特定健診の認知経路



特定健診の効果的なPR



IV 特定健康診査受診率向上のポイント ～調査結果から

<特定健診実施の啓蒙と告知>

◆ “健康を管理する” に訴求視点をシフトチェンジ

- ・ 特定健診の目的が医療費軽減の施策と感じられ、健康者には軽く感じられている。
- ・ 自営業者等には、健康を失うことで、仕事にどれほどの影響があるのかを訴求

<回答者の具体的な記入>

- ・ 健康状態がよいから不要/自分で管理している。 16件
- ・ 自己管理できているから。 9件
- ・ 毎年でなくてもいいと思っている。
- ・ 医療費が足りないとどんどん保険料が上がっているなか、健診の意味がないくだらない医者と関係者のため国民のためではない。
- ・ “検診を受けさせる”ような努力ではなくて“自分の体は自分で把握する”という意識を持たせる方向でPRすべきだと思う。
- ・ 学校教育で小さい頃から食育、生活リズムを教える。「自分の健康は自分で守る」意識（自律）の普及。
- ・ 病院、クリニックに通院していればすべてOKと思っている方が多いので全員が受診すべきことを広報してほしい。
- ・ 職場全体への日ごろの指導をする。対処ではなく、予防をかんがえるべきだ。

◆ 告知は年代ごとに対処し、期間を通した広報プラン

- ・ 特定健診に限らず、情報の入手経路は性・年代によりさまざま。また、受診期間中を通した広報プランが必要
- ・ “気付かなかった”を“紛失”と考えれば、督促状的なシステムも必要
- ・ 医療保険を変更した人への特定健診制度の周知

<回答者の具体的な記入>

- ・ 受診券郵送 19件 / ダイレクトメール 5件
- ・ 市から通知 8件
- ・ “検診を受けさせる”ような努力ではなくて“自分の体は自分で把握する”という意識を持たせる方向でPRすべきだと思う。
- ・ 誰がどのような検査を受けられるのかがわかりにくい。大きな病院でなく近くの医院で受けられるといいと思う。
- ・ 病院、クリニックに通院していればすべてOKと思っている方が多いので全員が受診すべきことを広報してほしい。
- ・ 退職したので通知がない。/退職したから。 7件
- ・ 昨年までは会社員として会社からの案内で健康診断を受けていたので、失業して今回はよくわからなかったから。
- ・ 仕事を辞めて保険に入っていないので病院に行けない。

<調査結果報告書>

<特定健診の受診環境>

◆受診時間や受診日を拡げる

- ・夜間や休日に受診できる体制（病院の診療時間等の情報）
- ・インターネット予約や、待ち時間（混み具合）の情報

<回答者の具体的な記入>

- ・忙しくて受診できなかった。 5件
- ・近隣の病院での指導。 2件
- ・ホームページやeメール。

◆病院への交通手段

- ・交通の利便性等を考慮した、他の市町での受診システム
- ・高齢者・身体の不自由な方への送迎などシステム

<回答者の具体的な記入>

- ・受診する場所が遠いから。 2件
- ・近隣の病院での指導。 2件
- ・市内ではなく、他市まで出向かなければならないから。
- ・自宅より保健センターまでのアクセスが遠い。
- ・送迎車ありは助かります。

◆自己負担金の軽減

- ・（住んでいる市町により、負担額は異なるが）自己負担金の軽減

<回答者の具体的な記入>

- ・料金が安い/金がかかる。 5件
- ・金銭負担が無理。 2件

<特定健診の受診内容>

◆健診項目のオプション

- ・ガン健診等の、受診者が希望する健診項目のオプション化
- ・女性には婦人病の健診項目を増やす

<回答者の具体的な記入>

- ・ガン健診 22件
- ・婦人科健診/乳がん/子宮がん/リュウマチ 13件
- ・検査内容が少なすぎて受ける意味がない。
- ・健診項目が少ない。
- ・健診項目が少なすぎる。

◆定期的な通院者に対して

- ・通院病院での特定健診の受診や、定期検査と特定健診を一回で処理する併用化

<回答者の具体的な記入>

- ・定期的に医療機関を受診しているから。 21件
- ・今年は病院で診てもらったので。
- ・病院、クリニックに通院していればすべてOKと思っている方が多いので全員が受診すべきことを広報してほしい。